２年　こども学科

こども学科教育課程表（2023年度（令和5年）入学生）

区分		ナンバリング	科目	単位 授業の方法	必修	選択	開講時期 1年生 前	1年生 通	1年生 後	2年生 前	2年生 通	2年生 後	担当教員名	卒必	幼二種	保育士	こども音楽療育士	准学校心理士	備考
教養科目	人間と文化		日本文化	講義		2							開講せず						［教養科目］
			芸術に親しむ	講義		2	○						七宇純子/長谷川裕久						卒業要件：14単位以上（必修含む）
			子どもと読書	講義		2							開講せず						「人間と文化」 2単位以上
			こども未来学	講義		2	○						助川/佐藤/安藤/国府田/馬立/加茂川/小口/森井/白土/八木澤			○			「人間と社会」 2単位以上
			ウィンドアンサンブル入門	演習		1		◇					八木澤香菜						「生活と科学」 2単位以上
	人間と社会		日本国憲法	講義		2	○						小口恵巳子		○				ウィンドアンサンブル入門
			現代社会論	講義		2							開講せず						（◇年間15回）
			生涯学習概論	講義		2							開講せず						
			女性学	講義		2			○				小林和子/小口恵巳子						
			女性と社会生活	講義	2		○						辻京子	○		○			
			キャリア形成ゼミⅠ	演習	1			○					助川/佐藤/安藤/国府田/馬立/加茂川/小口/森井/白土	○		○			
		26121	キャリア形成ゼミⅡ	演習	1						○		佐藤/助川/国府田/馬立/加茂川/安藤/小口/森井/白土/*八木澤	○		○			
	生活と科学		生活と環境	講義		2			○				佐藤隆						
			身体のしくみと働き	講義		2	○						安嶋隆						
	実務と情報		マルチメディア演習	演習		2	○						佐藤隆		○				
			プレゼンテーション入門	講義		2							開講せず						
	人間と健康		健康とスポーツ	講義		1		○					赤堀文也		○	○			
				実技		1													
			ダンス入門	実技		1	○						国府田はるか						
	外国語		英語Ⅰ	演習	2			○					内補真二	○	○	○			
専門科目	目的		教育原理	講義		2			○				助川公継		○	○			［専門科目］
			保育者論	講義		2			○				小口恵巳子		○	○			卒業要件48単位以上（必修含む）
			子ども家庭福祉	講義		2			○				安藤みゆき			○			△ 資格選択科目
			社会福祉	講義		2	○						白土良子			○	△		
		25221	子ども家庭支援論	講義		2						○	小口恵巳子			○			
			保育原理	講義	2		○						小口恵巳子	○		○			
		24221	社会的養護Ⅰ	講義		2				○			野田潤一郎			○			
	対象		保育の心理学	講義	2		○						安藤みゆき	○	○	○	△	○	
		25252	子どもの理解と援助	演習		1						○	加茂川くるみ		○	○	△		
			子どもの保健	講義	2		○						渡辺政子	○		○	△		
		26221	子どもの食と栄養	演習		2					○		林まち子			○			
		25263	子ども家庭支援の心理学	講義		2						○	森井榮治			○	△		
		25242	幼児理解と教育相談	講義		2						○	白土良子		○	△	△	○	
	領域		幼児と音楽Ⅰ	演習	1				○				兼氏ちな美	○		○	○		
			幼児と音楽Ⅱ	演習		1	○						和泉田/八木澤；清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶			○			
			幼児と音楽Ⅲ	演習		1			○				和泉田/八木澤；清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶			△			
			幼児と造形	演習	1				○				七宇純子	○		○			
			幼児と表現	演習		1			○				加茂川くるみ		○	○			
			幼児と健康Ⅰ	演習	1		○						国府田はるか	○	○	○			
			幼児と健康Ⅱ	演習		1			○				国府田はるか			○			
			幼児と言葉	演習		1			○				森井榮治		○	○			
		24271	音楽演習Ⅰ	演習		1				○			和泉田/八木澤：/清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶				○		
		25271	音楽演習Ⅱ	演習		1						○	馬立明美/八木澤				○		
			音楽演習Ⅲ	演習		1			○				和泉田寛			○	○		
			日本語表現法Ⅰ	演習		1							開講せず			△			
			日本語表現法Ⅱ	演習		1							開講せず			△			
			幼児と環境	講義		2	○						助川公継		○	△			
	内容・方法		保育の計画と評価	講義		2			○				富田浩子			○			
			教育課程論	講義		2	○						橋本祥子		○	△			
			保育内容総論	演習	1		○						石井純一	○	○	○			
		25231	保育内容演習（健康）	演習		1						○	綿引喜恵子		○	○			
		25231	保育内容演習（人間関係）	演習		1						○	橋本祥子		○	○			
		24231	保育内容演習（環境）	演習		1				○			助川公継		○	○			
		24231	保育内容演習（言葉）	演習		1				○			綿引喜恵子		○	○			
		24231	保育内容演習（表現）	演習		1				○			富田浩子		○	○			
			乳児保育Ⅰ	講義		2	○						橋本祥子			○			
			乳児保育Ⅱ	演習		1			○				富田浩子			○			
		25263	子どもの健康と安全	演習		1						○	渡辺政子			○	△		
		26241	特別支援教育の基礎	演習		2					○		白土良子		○	○	△	○	
		25221	社会的養護Ⅱ	演習		1						○	安藤みゆき			○			
		24262	子育て支援	演習		1				○			森井榮治			○		○	
		24232	教育の方法と教育メディア	講義		2				○			佐藤隆		○	△			
		25232	保育指導法	講義		2						○	木村久美子		○	△			
	研究	26121	ゼミナール	演習	2						○		国府田/馬立/加茂川/白土/八木澤	○		○			
		25121	総合表現	演習	1							○	国府田/馬立/加茂川/白土/森井/八木澤/長谷川	○		○			
	実習		教育実習指導	演習		1	○						加茂川くるみ/森井榮治		○				
		26211	教育実習	実習		4			○				加茂川/森井/助川/佐藤/安藤/国府田/馬立/小口/白土/八木澤		○				
			保育実習指導Ⅰ―A	演習		1			○				佐藤隆			○			
		24221	保育実習指導Ⅰ―B	演習		1				○			白土良子			○			
			保育実習Ⅰ（保育所）	実習		2			○				佐藤/助川/安藤/国府田/馬立/加茂川/小口/森井/白土/八木澤			○			保実指Ⅰ－A（保育所）
		24221	保育実習Ⅰ（施設）	実習		2				○			白土/助川/佐藤/安藤/国府田/馬立/加茂川/小口/森井/八木澤			○			保実指Ⅰ－B（施設）
		24322	保育実習指導Ⅱ	演習		1				○			国府田はるか			☆			保実指Ⅱ（保育所）
		24322	保育実習Ⅱ	実習		2				○			国府田/助川/佐藤/国府田/馬立/加茂川/小口/森井/白土/八木澤			☆			保実指Ⅱ（施設）
		24323	保育実習指導Ⅲ	演習		1				○			安藤みゆき			★			
		24323	保育実習Ⅲ	実習		2				○			安藤みゆき			★			選択必修　3単位
	実践演習	25231	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		2						○	佐藤/助川/安藤/加茂川/国府田/白土/森井		○	○			☆2科目または★2科目

区分			科目	単位 授業の方法	必修	選択	開講時期 1年生 前	1年生 通	1年生 後	2年生 前	2年生 通	2年生 後	担当教員名	こども音楽療育士	備考
資格取得科目	こども音楽療育士		こども音楽療育概論	講義		2	○						馬立明美	○	こども音楽療育士
			こども音楽療育演習	演習		1			○				馬立明美/八木澤	○	必修○　8単位
		26271	こども音楽療育実習	実習		1			○				馬立明美/八木澤	○	選択△12単位以上 合計20単位以上必要
	准学校心理士		※基礎資格要件　1条校（学校教育法）の教員免許状または保育士資格を有する者、かつ所定の単位を修得した者（取得見込みを含む）												

備考　*は後期から担当

2024/3/28 11:19

ナンバリング	26121		科目名	キャリア形成ゼミII

担当教員	佐藤/助川/国府田/馬立/加茂川/安藤/小口/森井/白土

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☑ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☐ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要　学生生活を充実させるとともに、就職活動や社会生活に必要な事項を学ぶことで自分がなりたい保育者像をしっかりとイメージし、それに向かって各自が努力できるように学んでいきます。

到達目標　(1)就職に必要な情報を得るとともに、手順や手続きについて理解することができます。
(2)社会人として必要なコミュニケーション能力や教養、マナーを身に付け、学び続ける保育者を目指すことができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション（授業の概要と見通し）
02　公務員試験の学習会及び相談会
03　個人面談①
04　学科別研修会に向けての話合い
05　学科別研修会事前学習
06　学科別研修会
07　子宮頸がん予防知識講習会
08　学科別研修会の振り返り
09　実習巡回担当教員との打合せ
10　防火避難訓練
11　個人面談②
12　こども学科発表会ガイダンス、グループ編成
13　防犯講習会
14　施設実習・幼稚園実習の巡回教員との打合せ
15　前期の振り返り（履修カルテ記入）

16　映画鑑賞会①
17　履歴書の書き方および採用面接の受け方
18　撫子祭に向けての話合い・準備
19　撫子祭前夕祭
20　映画鑑賞会②
21　実習報告会
22　労働法制度説明会
23　こども学科発表会に向けて（準備・練習・1年生との打合せ）
24　こども学科発表会に向けて（準備・練習・学内リハーサル）
25　こども学科発表会に向けて（会場リハーサル）
26　こども学科発表会
27　就職への道のり
28　租税教室
29　履修カルテ記入
30　１年間の振り返り・まとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 シラバスで次回の授業内容を確認し、前週に発表される学習内容について調べておくようにしてください。（約30分） 【事後学修】 自分の将来について考え、必要な情報を収集するなど積極的に進めてください。（約30分）
評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート等の提出物(50%) レポートの評価基準 １．誤字脱字がなく、文章表現が適切でわかりやすいか（10%） ２．求められている課題に内容が即しているか（20%） ３．指定されたフォーマットに即して作成されているか（40%） ４．課題の考察が授業内容を加味したものになっているか（30%）
アクティブラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、ライティング・ディスカッション
フィードバック	・授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。
実務経験	
教科書	なし
参考書	なし
備考	グループや他者との関わり、外部講師による講話等を通して、社会人としての基礎的な行動様式を身につけるとともに、キャリアアップ等を図っていきます。

ナンバリング	25221		科目名	子ども家庭支援論

担当教員	小口 恵巳子

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

平成28年、「仕事・子育て両立支援事業」が創設されました。男女問わず、国民が、就労を継続しながら 「安心して子どもを産み育てることができる環境」を整備するためには、それを支援する担い手が必要となります。保育者は、子育て支援・養育支援の中核的存在と位置しています。このような状況を踏まえて、子 育て中の家庭支援についての現状や支援の方法を具体的な事例を通して学んでいきます。この授業では、グループに分かれてディスカッションを行い、保育と家庭支援のつながりについての理解を深めるとこを図ります。

到達目標

次の２点を身につけることを通して、具体的な支援の方法について自分の意見を考えることが できるようになります。

・家庭を取り巻く社会状況を理解したうえで、なぜ家庭支援が必要なのか、説明することができます。

・家庭における人間関係にいて理解したうえで、どのような支援が必要か理解できます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　ガイダンス：家庭支援とは何か

02　子どもが育つ家庭の意義と機能

03　家庭支援の必要性

04　保育者が行う家庭支援の原理

05　現代家族の人間関係と子育て

06　地域社会の変容と家庭支援

07　男女共同参画社会とワークライフバランス

08　子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進

09　子育て支援サービスの概要

10　子育て家庭の福祉と社会資源

11　家庭と保育者の連携

12　特別な対応を要する家庭に対する支援

13　子育て支援における関係機関との連携

14　子育て支援サービスの課題

15　家庭支援に関するまとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 テキストの該当箇所を事前に読んでおき、わからない語句などを調べておく。子育て支援に関するニュースなどに関心をもち、新聞記事等の切り抜きをノートに貼ってまとめる。学修の目安は約2時間程度とする。 【事後学修】 授業のまとめを行う。その際、支援の中核的存在としての保育者の役割について自分の意見をノートにまとめる。学修の目安は約2時間程度とする。
評価方法	（1）定期試験（40%）（2）リアクションペーパー（30%）（3）授業への取り組み（30%）
アクティブラーニング	グループディスカッション　映像活用学習　ケースメソッド
フィードバック	提出物には、評価及びコメントを記入して返却します。
実務経験	
教科書	谷田貝公昭他監修『コンパクト版　保育者養成シリーズ　家庭支援論』（2018）一藝社
参考書	必要に応じて講義内で紹介します。
備考	筆記試験（小テスト）について、全体講評のフィードバックを行います。

ナンバリング	24221		科目名	社会的養護I

担当教員	野田 潤一郎

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

社会的養護について、その意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護、制度や実施体系、今後の課題などを学びます。またこの授業では、施設での子どもたちの暮らしを支える保育士や関係する専門職の支援内容についても学び、施設実習に向けて社会的養護の理解を深めていきます。

到達目標

1.現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について説明することができます。
2.子どもの人権を踏まえた社会的養護の基本について具体的に述べることができます。
3.施設で暮らす子どもたちを支える保育士の役割について、自分の考えを述べることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 オリエンテーション、社会的養護とは何か
02 子どもの権利擁護と社会的養護
03 社会的養護の基本原則
04 社会的養護の制度と法体系
05 社会的養護の仕組みと実施体系
06 社会的養護の対象
07 社会的養護に関わる専門職
08 社会的養護における保育士等の倫理と責務
09 施設等の運営管理
10 社会的養護の歴史的変遷
11 家庭養護と施設養護
12 被措置児童等の虐待防止
13 社会的養護と地域福祉

14　施設での子どもたちの暮らしを支える保育士の支援内容

15　社会的養護のまとめ　社会的養護の施設で実習する意義やねらい

授業時間外の学修	【事前学修】 次回の授業の範囲のテキストを読み、わからない単語、興味を持った内容について調べてまとめる。学修の目安は約2時間程度とする。 【事後学修】 授業内容について復習し、授業で扱ったテーマと関連する報道などに興味を持ち調べる。学修の目安は約2時間程度とする。
評価方法	定期試験を実施します。 授業への取り組み30%　レポートなどの提出物30%　定期試験40%
アクティブラーニング	
フィードバック	
実務経験	◯　社会的養護施設の施設長としての実務経験を活かし、実践的な授業を行う。
教科書	図解で学ぶ保育　社会的養護1、原田旬哉・杉山宗尚編著、<第2版＞(株)萌文書林 ISBN:978-4-89347-411-7
参考書	なし
備考	なし

ナンバリング	24252		科目名	子どもの理解と援助

担当教員	加茂川 くるみ

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☑ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

実際の保育実践にあたり,目の前の子どもをどのように理解していくか,更には子どもの心身の発達や環境の違いによって,子どもたちの様子を正確に捉えるための視点や観点を具体例や実践例を提示し,その目を養う。また実践例や資料から,グループ討議をして,相互に保育者としての見取りの力や対応力をつけていきたい。その上で,配慮を要する子どもの保育や就学に向けた支援についても目を向けられる広い視野をもつ保育者の育成を目指したい。

到達目標

1 保育実践するにあたり,実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握する意義を理解することができる。
2 子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解することができる。
3 現場の実態例や実践事例をとおし,子どもを理解するためのその場に応じた具体的な方法を理解することができる。
4 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解し、実践に即して使いこなすことができる。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　保育における子ども理解の意義
・保育者の仕事と子ども理解　・保育所保育指針と子ども理解　・演習

02　子どもに対するかかわりと共感的理解
・共感的理解とは　・ 演習　・アクスラインの遊戯的療法の８原則

03　子どもの生活や遊び
・乳幼児の生活と基本的生活習慣の獲得　・乳幼児期の遊び　・演習

04　保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
・子どもの発達と保育者の役割　・保育者のかかわりで子どもが変わる　・演習

05　子ども相互のかかわりと関係づくり
・３歳未満児、３歳以上児におけるかかわり　・子ども相互のかかわりを生み出すもの　・演習

06　集団における経験と育ち
・クラス集団との出会い　・遊び集団の成立・異年齢集団の中の子どもの育ち　・演習

07　発達における葛藤やつまずき
・いざこざの発達的変化と保育者の援助　・自我の発達にかかわる保育者の援助　・演習

08　保育者の環境と理解と構成
・環境とは　子どもと環境・保育者の環境・環境構成の原則　・演習　・環境が脳をつくる

09　環境の変化や移行
・さまざまな環境の変化や移行の場面　・環境の変化や移行に影響する要因　・演習

10　子ども理解のための観察・記録と省察・評価
・保育における「子ども理解」とは　・子どもを理解する方法　・演習

11　子ども理解のための職員間の対話・同僚性
・保育における対話と協働　・対話の機会を生む保育カンファレンス　・演習

12　子ども理解のための保護者との情報共有
・保育所保育指針等にみる保育者との情報共有　・演習　・子ども理解のための保護者との情報共有のポイント

13　発達の課題に応じた援助とかかわり
・個人差と発達過程　・発達の課題に応じた保育実践　・演習

14　特別な配慮を要する子どもの理解と援助
・特別な配慮を要する子どもとは　・インクルーシブ教育　・理解されにくい子どもへの配慮と援助　・演習

15　全体のまとめ
発達の連続性と就学への支援
・幼小接続期における子どもの発達と学びの連続性　・幼少接続期におけるさまざまな連携　・演習

授業時間外の学修

【事前学修】
・次時の課題を知り必要な資料を集めたり専門的用語の確認をしたりしておく。また，保育にかかわる報道記事などを集めたり，自分なりの考えや疑問を書きとめておく。（随時）
・授業でえた知識や技術さらに教育実習をとおしての経験を基に,保育者としての在り方について自分の考えをまとめておく。(約1時間)

【事後学修】
・授業内でまとめた記録や小レポートは内省し事後の感想など書き入れ実践に生かすようにする。(1時間)
・保育者を目指す仲間との意見交換など授業の中の演習を大切にし、実習など授業外で主体的に子どもにかかわっていく。

評価方法

・授業内小レポート3回提出　60%　・授業・演習への取組・記録用紙　毎回　40%
評価基準
1 求められている課題に内容が即しているか。(20%)
2 課題の考察が充分に授業内容を加味したものになっているか。(20%)
3 内容が自分のものとして,内省できているか。(20%)

アクティブラーニング

○ 5名程度の少人数によるワークショップで自分の考えまとめたりお互いの考えを共有したりする活動を通して自分の考えを深め広げていく。
○ 演習やグループディスカッション後自分の経験と関連させて振り返りをするリフレクティブジャーナル実施
○ 授業内にキーワードを挙げそれについての自分の考えを小レポートにまとめるキーワードレポートを実施

フィードバック

・グループディスカッション後のグループ発表を相互に聞く際に,保育に対しての自分の考えが深まったり,違った視点の発見や視野が広がるような聞き方を課します。
・小レポートについては, 必ず内省できるような教員のコメントを記入し返却します。

実務経験

○　小中学校や幼稚園勤務経験を活かし,幼児教育の重要性と小学校への接続について,現場の実態をとおして,今後の保育者としてどう在るべきかまでを考え,自ら意欲的に保育者としての資質向上を目指そうとする姿勢が養えるようしたいと考えています。

教科書

新基本保育シリーズ⑩子どもの理解と援助　中央法規　清水益治　森俊之編集

参考書

その他必要に応じ、授業内で適宜紹介する。

備考

グループディスカッションに,積極的に参加するには自分の考えを常に持っていることが重要です。幼児教育に関することについて情報をあつめ,関心をもってのぞみましょう。

ナンバリング	26221		科目名	子どもの食と栄養

担当教員	林 まち子

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（上秘メ） ☑ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（プ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（プ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（音療） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）

授業概要

子どもの健やかな発達・発育を促すための、食生活や栄養に関する基礎知識を習得します。また、家庭や児童福祉施設における食生活の課題、食物アレルギー疾患、特別な配慮を要する子どもへの対応について学びます。「食育」の意義と内容を理解し、保育現場で実践できる技術を学びます。「田植え」、「稲刈り」などの校外学習や調理実習を取り入れることで、グループで協力することの重要性を確認します。

到達目標

1)妊娠期(胎児期)、乳幼児期、学齢期、思春期、高齢期など、それぞれのライフステージに応じた望ましい栄養摂取の方法を理解し、生涯を通じて健康な食生活を営むことができる知識を習得できます。2)子どもたちが食べものに関心をもち、食べることを楽しむことができるように導くことができます。3)子どもたちが「食」を通じて人と関わる力が育まれるように、家族や地域と連携しその環境を整えることができます。4)日本の伝統や食文化について知り、それを継承することができます。5)食物アレルギー疾患や障がいのある子どもの食事摂取に対し適切に対応することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01	子どもの健康と食生活の意義1)日本人の健康問題と食生活上の問題
02	子どもの健康と食生活の意義2)子どもの食生活の現状と課題
03	子どもの発育・発達と食生活1)身体発達・精神・運動機能発達と栄養・食生活
04	子どもの発育・発達と食生活2)食べる機能(摂食・嚥下)の発達と消化吸収機能
05	子どもの発育・発達と食生活3)食欲・味覚・嗜好の発達4)偏食の対策5)排泄・排尿
06	食育の実践1)田植え体験
07	母乳栄養と人工栄養について・調乳方法・調乳実習
08	栄養に関する基本的知識1)エネルギー代謝・糖質・脂質の働き
09	栄養に関する基本的知識2)たんぱく質・ビタミン・ミネラルの働き
10	献立作成と調理の基本・野菜を使ったおやつ作り(調理実習)
11	妊娠期(胎児期)の食生活・妊娠のメカニズムと妊婦の食生活

12　乳児期の栄養と食生活1)乳児期の生理的特徴と食生活の関係

13　乳児期の栄養と食生活2)母乳栄養と人工栄養の特徴

14　乳児期の栄養と食生活生理3)離乳の意義とその実践

15　幼児期の栄養と食生活1)幼児期の心身の特徴と食生活の関係

16　幼児期の栄養と食生活2)偏食・食欲不振・噛めない子どもへの対応・間食の意義とその実践

17　学童期と思春期の栄養と食生活・学童期と思春期の身体発達の特徴と食事摂取基準

18　食育の実践2）稲刈り体験

19　「食育基本法」・食育の目標・食育指導計画

20　食育の実践3)調理実習「収穫した米でおにぎりを作ろう」

21　食育の実践4)媒体を使った食育活動の実践　食育マスコット「三色食品群って何？」・食育エプロンシアター「何でも食べて元気いっぱい」

22　食育の実践5)「クッキング保育」の計画

23　食育の実践6)食育の評価・「食育便り」作り

24　食の安全性・食品表示・食品添加物・遺伝子組み換え食品・健康食品・サプリメント

25　児童福祉施設における食事と栄養1)児童福祉施設給食の基本方針

26　児童福祉施設における食事と栄養2)保育所給食の意義と内容

27　児童福祉施設における食事と栄養3)給食施設の衛生管理・食中毒

28　特別な配慮を要する子どもの食事と栄養1)食物アレルギーの子どもへの対応と除去食

29　特別な配慮を要する子どもの食事と栄養2)疾病及び体調不良の子どもへの対応

30　特別な配慮を要する子どもの食事と栄養3)障がいがある子どもへの対応

授業時間外の学修	【事前学修】 自身の食生活について振り返り、現代の子どもや若者の食生活上の課題を見つけ出し、プリントにまとめる。(1時間程度) 【事後学修】 テキストや授業で配布されたプリントを復習し、子どもの栄養バランスを考えた食事や、食べる楽しさを体験できる食育の計画をプリントにまとめる。(2時間程度)
評価方法	定期試験60％、提出物(授業プリント提出30回)30％、　授業への取り組み10％
アクティブラーニング	グループディスカッション・グループワーク
フィードバック	授業の終わりに提出してもらうプリントにコメントや評価を記入して返却します。
実務経験	○　高等学校家庭科担当教諭、県高等学校家庭担当指導主事、高等学校長協会家庭部会長としての経験及び教科「家庭」の教科書執筆経験を活かし、現代社会の食に関する問題点の指摘と改善のための提案を行います。また、基本的な栄養の知識を習得し、食への関心が深まるように実践に役立つ授業を行います。
教科書	子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養　堤ちはる・土井正子　編著　ISBN 978-4-89347-154-3
参考書	「食べない子が変わる魔法の言葉」山口健太著ISBN978-4-7778-2416-8　「食卓の力」で子どもが変わった！いっしょに食べて心を育てる　室田洋子著　ISBN978-4-86255-029-3
備考	

ナンバリング	25263		科目名	子ども家庭支援の心理学

担当教員	森井 榮治

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☑ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

この授業では、生涯発達という観点から、乳幼児期から老年期までの発達課題について学びます。次に、子どもの発達に重要な役割を果たす家族・家庭に意義や機能、親子・家族関係について理解するとともに、子育て家庭を巡る現代の社会状況と課題について学びます。さらに、子どもの心身の健康と保健について理解し、精神疾患や障害のある子どもの支援について学びます。また、授業の視点として、細やかな配慮のもと、学生自身の体験を踏まえながら考えることも大切にしたい。

到達目標

(1)生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し初期経験の重要性，発達課題等について理解することができます。(2)家族・家庭の意義や機能を理解し，親子関係や家庭環境等について発達的な観点から，子どもとその家庭を包括的に捉えることができます。(3)子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができます。(4)子どもの精神保健とその課題について理解することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　ガイダンス　乳児期の発達

02　幼児期の発達

03　学童期の発達

04　青年期の発達

05　成人期・中年期の発達

06　高齢期の発達

07　家族・家庭の意義と機能

08　家族関係・親子関係の理解

09　子育ての経験と親としての育ちについての理解

10　子育てを取り巻く社会状況についての理解

11　ライフコースと仕事・子育てについての理解

12　多様な家庭とその理解と支援

13　特別な配慮を必要とする家庭への支援

14　子どもの生活・生育環境とその影響についての理解

15　子どものこころの健康にかかわる問題についての理解と支援

授業時間外の学修	【事前学修】 次時の学修課題のワークシートを教科書、資料を使いまとめる。子育て家庭支援に関する新聞記事等を収集しコメントをする（約2時間） 【事後学修】 学修内容に関する課題をまとめ提出する。授業で使ったワークシートや配付された資料を使い、授業の復習と振り返りする。（約2時間）
評価方法	授業への取組30％ 授業ワークシート等提出物40％ 定期試験30％
アクティブラーニング	・報道記事、自分の経験や体験、実習時の体験をもとにグループディスカッションを実施する。・授業のテーマに関するワークシートの作成し、学習課題に関する自分の考えをまとめる。
フィードバック	授業に関するワークシートに記載された学生の考え、主張に対しコメントすることで、多様な考え方や新たな気づき等を促す。
実務経験	○　小中学校において生徒指導や教育相談を担当していた経験を生かし，様々な課題を抱える子どもや保護者の支援のあり方を，生涯発達や家族や親子関係，子どもの精神保健等の観点から考えます。また、子ども子育てに関する審議会員を務めいることから、幼児教育の課題や子育て家庭の抱えている課題に対し、幼稚園や保育園等の施設ばかりでなく、身近な行政、地域社会が行っている具体的施策についても触れていきたい
教科書	新基本保育シリーズ9「子ども家庭支援の心理学」監修・公益財団法人児童育成協会、編集・白川佳子、福丸由佳　中央法規
参考書	保育所保育指針(厚生労働省)・幼稚園教育要領(文部科学省)・その他、授業中に適宜紹介をします。
備考	提出された課題は、授業の中で取り上げます。また，評価の対象となります。

ナンバリング	25242		科目名	幼児理解と教育相談
担当教員	白土 良子			

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☑ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☑ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

現代の子どもを取り巻く生活環境を確認しながら幼児期の発達の道筋や特徴、親子関係について学びます。また、保護者に対しての相談・支援方法の技術について学びます。

到達目標

1．幼児の心身の発達への理解を深めるとともに、保護者との相談活動のすすめ方、連携の取り方を身に付けることができます。
2．来談者中心療法をはじめとするカウンセリングのスキルを説明することができます。
3．子育て支援の背景を踏まえ、保護者への支援、地域の子育て家庭への支援のあり方を理解することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 保育の場における相談ニーズとカウンセリング・マインド

02 子どもの発達理解と相談・支援

03 保護者への対応(1)親子の関係づくりの支援

04 保護者への対応(2)親育ちのための発達支援

05 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり(1)発達障害や気になる子どもについて

06 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり(2)保護者へのかかわり

07 子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ(1)子どもの発達とアセスメント

08 子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ(2)カウンセリングの基礎理論

09 保育現場でのカウンセリング技法の活用(1)カウンセリングの基本事項

10 保育現場でのカウンセリング技法の活用(2)カウンセリングの技法

11 園・地域における専門家との連携による相談・支援

12 保育者の専門性と相談活動

13 基礎対人関係のトレーニング

14　保護者への対応事例検討

15　子どもへの対応事例検討

授業時間外の学修	【事前学修】 保育現場における子ども・保護者の理解とカウンセリングに関することを調べ、ノートにまとめる。（約2時間） 【事後学修】 発達や育児に困難や課題を抱える親子や家族への理解を深めるために新聞やニュースを見て気づいたことをノートにまとめる。（約2時間）
評価方法	レポート50%、ミニレポート50% レポートの評価基準 1　誤字脱字がなく、丁寧に書くことができる（50%） 2　内容がテーマに即している（40%） 3　専門用語を説明でき、論理的に記述することができる（10%）
アクティブラーニング	ペアグループワーク　映像活用学習　ケースメソッド
フィードバック	ミニレポートには、評価と教員のコメントを記入して返却します。
実務経験	○　教育支援委員会の教育支援委員、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターとしてのスキルを実務経験を生かし、子どもの実態把握の方法等について提示しながら実践的な授業を行う。
教科書	小田豊 秋田喜代美編『新時代の保育双書　子どもの理解と保育・教育相談』株式会社みらい
参考書	必要に応じて授業の中で紹介します。
備考	授業の最初に前回の内容のフィードバックを行います。また、授業内での発表について、その都度、フィードバックを行います。

ナンバリング	24271		科目名	音楽演習I

担当教員	和泉田/八木澤/清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（保） ☑ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

子どもの音楽活動を支援するピアノ伴奏や弾き歌いの技能をさらに高めます。個人と小集団のレッスン・演習を組み合わせた授業形態で、各自の弾き歌いを含めたピアノ演奏技能を高めるとともに、保育の場で実際に起こり得る場面を想定した実践的な指導法を学びます。さらに、身につけた発声法を生かして伸びやかな声での表情豊かな弾き歌いを目指します。

到達目標

(1)ピアノの弾き歌いや歌唱の技能を高め、実際の保育の場で子どもたちと楽しく音楽活動ができるようにします。(2)参加者同士が協力して教材研究したり、効果的な指導法を工夫したりする楽しさ感得します。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 オリエンテーション(全体)
個人レッスン：自由選択曲の演奏

02 個人レッスン：夏の楽曲のピアノ演奏(伴奏の工夫)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(子どもにあったテンポ・表現)

03 個人レッスン：夏の楽曲の弾き歌い(楽曲の構成を生かした表現)

04 個人レッスン：秋の歌のピアノ演奏(歌い出しの合図)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(ピアノと歌唱のバランス)

05 個人レッスン：秋の楽曲の弾き歌い(発声の基本：発音・口形)

06 個人レッスン：生活の歌のピアノ演奏(伴奏の工夫：リズム楽器の導入)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(フレーズを生かした表現)

07 個人レッスン：生活の歌の弾き歌い・子どもの歌のピアノ演奏(リズムの特徴を生かしたヒ表現)

08 個人レッスン：子どもの歌の弾き歌い(歌詞の内容を生かした表現)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(簡易合奏形態の活動)

09 個人レッスン：実際の保育の場を想定した弾き歌い(発声の基本：呼吸・息つぎ)

10 個人レッスン：保育実習に向けた楽曲のピアノ演奏(諸記号の理解)

小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(子ども(役)を見ながらの弾き歌い)

11　個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(環境設定の工夫)
※小テスト(ピアノ弾き歌い)課題曲の提示

12　個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(導入の工夫)
小集団演習：小テスト

13　個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(展開の工夫)

14　個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(教材の工夫)

15　個人レッスン：既習曲の演奏・保育実習までの練習計画

授業時間外の学修	【事前学修】 課題となる楽曲の旋律やリズム、歌詞などを把握し、弾き歌いの練習を重ねてください。(約1時間) 【事後学修】 ピアノの弾き歌いの表現を自分なりに工夫するなどして技能の定着を図ってください。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み(50%)小テスト(50%)
アクティブラーニング	子どもが主体的に取り組める音楽活動や身体表現を加えてより表現力を高める指導法などについて各自の考えを出し合います。その効果等について子どもの立場になって活動することで検証します。
フィードバック	ピアノの弾き歌いや音楽活動についての考えについて、その都度アドバイスをします。授業終了時には各自の記録用紙に評価を加えて返却し、取り組みの成果や課題を明確にします。
実務経験	
教科書	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集１　ISBN978-4-05-154163-7 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集２　ISBN978-4-05-154164-4
参考書	幼稚園教諭・保育士養成課程「幼児のための音楽教育」教育芸術社　ISBN978-4-97788-443-7
備考	小集団の演習では、子どもの楽しい音楽活動を促す方法について理解を深めるとともに、保育者役と子ども役に分かれ、実際の保育場面を想定して対象(子ども役)を見ながらのピアノ伴奏や弾き歌いができるようにしていきます。

ナンバリング	25271		科目名	音楽演習II

担当教員	馬立明美/八木澤香菜

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☑ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

保育の中で様々な年齢、発達段階の子ども達に対応する音楽知識や技術を習得します。この授業では年齢別季節別の教材や環境構成についての研究や音楽表現の方法をグループワークで考察し、幼稚園で実践します。また、四季の歌と手遊び歌を把握し指導できるようになります。

到達目標

（1）子どもの発達を理解し年齢に応じた音楽を考察し季節の歌、楽器あそび、手あそびを学修し自信をもって指導ができるようになります。
（2）絵本や紙芝居に音やリズムをつけることができるようになります。
（3）音楽の基礎知識に加え教材研究や作成ができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション
　　実習の振り返り（グループワーク）マイノート作成開始

02　保育者に必要な音楽基礎知識　伴奏法

03　楽器遊びを中心とした表現活動　楽器の種類と取り扱い方・演奏法

04　子どもの音楽表現１　紙芝居と音楽（教材選び・グループ決定）グループワーク

05　子どもの音楽表現２　紙芝居と音楽（読み合わせ・音合わせ）グループワーク

06　子どもの音楽表現３　紙芝居と音楽（リハーサル）グループワーク

07　子どもの音楽表現4　紙芝居と音楽（幼稚園での実践）グループワーク

08　子どもの音楽表現5　紙芝居と音楽（振り返り）

09　子どもと音楽１（リズム遊び）

10　子どもと音楽２（わらべうた）・マイノート作成

11　子どもと音楽３（季節の歌）・マイノート作成

12　赤ちゃんと子どもの音楽表現

13　年齢別指導計画（3・4・5歳児）（0・1・2歳児）

14　年齢別指導計画　発表

15　まとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 これまで学修した楽譜をまとめて多くの曲を把握しておいてください。また、絵本や紙芝居に合わせる音を考えておいてください。(約1時間) 【事後学修】 他グループの発表の音楽も参考にして絵本に合わせる音を実践してみましょう。また、就職に向けて伴奏や弾き歌い、手遊びのレパートリーを増やしておいてください。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み50%、課題のプリント提出30%、成果発表20%
アクティブラーニング	グループディスカッション　クリエイティブセッション
フィードバック	提出ノートには、教員のコメントを記入して返却します。
実務経験	○　幼稚園、保育園での音楽指導および小学校、中学校の音楽教員、保育者養成校での音楽表現授業の実務経験を活かし様々な音楽表現活動について実践的な授業を行います。
教科書	神原雅之　鈴木恵美子（2014）幼稚園教諭・保育士養成課程『幼児のための音楽教育』教育芸術社
参考書	今泉明美　有村さやか編著（2018）幼稚園教諭・保育士養成課程『子どものための音楽表現技術』萌文書林
備考	授業内での発表について、その都度フィードバックを行います。

ナンバリング	25231		科目名	保育内容演習（健康）

担当教員	綿引 喜恵子

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

乳児及び幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。特に乳幼児の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め実務経験を生かしアクティブラーニングの技法を取り入れ具体的な保育場面を想定して保育を構想する方法を身に付けます。

到達目標

(1) 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力が習得できます。(2)領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を述べることができます。(3) 領域「健康」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し保育の構想に活用することができます。
(4)子どもが保育所保育指針に示す乳児保育における3つの視点を踏まえ指導案の構造を理解し具体的な保育を想定した指導案を作成することができます。 (5)領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりが理解できるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 乳児及び幼児教育の基本（保育の専門性、保育内容）

02 領域「健康」のねらいと内容の理解

03 乳幼児期の生活習慣の形成(食育)

04 乳幼児期の生活習慣の形成（衛生管理）DVD視聴アレルギー疾患の対応

05 健康な心と体を育む保育の構想(教材研究）健康指導のための教材作り

06 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育）DVD視聴後ディスカッション

07 自然環境と子どもの健康(遊びや生活の中での動きの経験を促す環境構成と援助）

08 子どもの心の健康（DVD視聴　幼児の内面の捉え）

09 子どもの心の健康（育ちに応じた環境構成の在り方、計画立案）

10　子どもの健康と運動遊び(運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導)

11　子どもの健康と運動遊び（運動遊びの指導の実際　指導案の作成）

12　乳幼児期の安全教育（交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助、特別な配慮を要する子どもへの援助を含む）

13　乳幼児期の安全教育（教材作成、模擬保育、振り返り）

14　健康な心と体を育む保育の評価と改善（PDCAサイクルから）

15　小学校への接続に向けて（アプローチ・スタートカリキュラム）まとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 教材研究をし、保育の内容を考察するなど自主的な学修が必要とされる。(約1時間) 【事後学修】 授業内容を踏まえ、模擬保育に向けての指導計画作成(約1時間)
評価方法	１ 授業への取り組み２０％　２ 課題への取り組み２０％　３ 定期試験６０％
アクティブラーニング	映像活用学習　クリエイティブ・セッション
フィードバック	提出レポート、指導案には、教員のコメントを記入して返却します。
実務経験	○　幼稚園（副園長）で勤務していた実務経験を活かし、領域「健康」の内容に基づき幼児の発達に添った関わり方について実践的な授業を行う。
教科書	授業で使用する資料については全て配布
参考書	幼稚園教育要領解説　文部科学省　フレーベル館　ＩＳＢN978−4−577−81245−7 保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館　ＩＳＢN978−4−577−81246−6 幼保連携型認定こども園教育・保育要領　内閣府　文部科学省　厚生労働省ISBN978-4-577-81449-9
備考	グループディスカッションや演習を取り入れた授業を行うので、積極的に参加して下さい。自分で考えた意見や思いが言えるようにし、他のメンバーの意見を真摯に受け止め、再度考えて自分の意見を確かなものにすることを求めます。 授業内のレポートについて、個別のフィードバックを行います。

ナンバリング	25231		科目名	保育内容演習（人間関係）

担当教員	橋本 祥子

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

保育の現場における多様な人間関係(保育者と子ども、子ども同士、保育者と家族、保育者同士、保育者と関係機関等)と、それらを通した保育者や子どもの「育ちあい」についてDVD映像や事例をもとに学びます。

到達目標

(1)養護及び教育に関わる保育の内容がそれぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得することができます。(2)乳児期及び幼児期の遊びや生活の中で育つ、人と関わる力の発達について理解することができます。(3)子どもが生活や遊びにおいて体験している人間関係を捉えるとともに、留意したり配慮したりすべき事を理解し、子どもと関わる力を高めることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　幼児教育の基本と人との関わり

02　領域「人間関係」と他領域との関係

03　乳幼児の発達と領域「人間関係」

04　乳幼児期の保育者との関わり(DVD視聴)

05　遊びのなかの人との関わり(1)遊びの発達と人間関係

06　遊びのなかの人との関わり(2)遊びの創造と人間関係(模擬保育)

07　生活を通して育つ人との関わり

08　個と集団の育ち(1)遊びの発達と人間関係

09　個と集団の育ち(2)協同性を育む

10　3歳児の遊びと人間関係(DVD視聴)　グループディスカッション

11　4、5歳児の遊びと人間関係(DVD視聴)　グループディスカッション

12　人とのかかわりを見る視点

13　人間関係を促すふれあい遊び　　模擬保育・グループディスカッション

14　幼児教育の現代的課題と領域「人間関係」(1)人との関わりを育む幼児教育の今

15　幼児教育の現代的課題と領域「人間関係」(2)情報機器と保育の内容

授業時間外の学修	【事前学修】 乳幼児の各年代における関係性について、ノートにまとめる。 授業内容(授業中に配布したプリントなど)についてプリントをよく読み、自分の意見をノートにまとめる。（約1時間） 【事後学修】 授業内容(授業中に配布したプリントなど)についてプリントをよく読み、自分の意見をノートにまとめる。（約1時間）
評価方法	授業への取り組み15%　小テスト　40%　レポート45%（提出期限・適切な表現・内容・課題の考察・誤字脱字）
アクティブラーニング	映像活用学習　グループディスカッション　体験学習
フィードバック	提出レポートには、全体への講評及び個別に評価とコメントをします。
実務経験	○　国公立幼稚園教諭、公立幼稚園教頭等の実務経験を活かし、保育現場における多様な人間関係と、それらを通した保育者や子どもの「育ちあい」について具体的事例を通しながら授業を行っている。
教科書	なし
参考書	幼稚園教育要領解説　文部科学省　　保育所保育指針　厚生労働省　　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府　文部科学省厚生労働省
備考	・グループディスカッションや体験学習を取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。・授業内レポートについて、個別のフィードバックを行います。また、内容によっては全体講評のフィードバックも行います。

ナンバリング	24231		科目名	保育内容演習（環境）

担当教員	助川 公継

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

幼児教育における「環境」は大変重要な部分を占めています。この「環境」の意味を十分に理解し把握した上で、実際の事例を参照または見学をする中から環境と子どもの関係を熟知し、保育者として具体的に何をどのようにすべきか等を討議します。環境を構成したり、子どもの変化をとらえて保育内容を再構想したり、意図的に移行させたりすることが保育者として果たすべき役割となることを実践事例からくみ取り、実際の指導計画等も考えていきます。

到達目標

(1)子どもたちの生活の実態から、子どもを取り巻く環境とはどんな状況や状態のことを示すのかをグループ討議しながら考えを深め、子どもにとっての環境についての基本的な考え方と領域「環境」の意味を理解することができます。
(2)保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の環境に関する記述部分を理解し、保育現場の具体的な実践事例を通して、環境の重要性を認識することができます。
(3)子どもや保育者を取り巻く環境の実態から、具体的な保育の展開や方法をグループ討議し、取り巻く環境の実態に自ら気付き、その実態に合った効果的な保育内容や保育方法が構築できるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　保育と環境

02　領域「環境」のとらえ方と考え方（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連）

03　保育環境の構成

04　友だちや保育者とともに育つ人的環境

05　豊かな生活を育む環境を創る物的環境

06　生き物や植物等の自然の事象に関心をもつ自然環境

07　自分を取り巻く社会の文化に興味をもつ社会的環境

08　友だちとの遊びを広げながら育つ事例　視聴覚教材活用

09　異年齢との関りや保育者との相互の関わりから育つ事例　視聴覚教材活用

10　遊びの展開を作り出せる室内環境の構成事例　視聴覚教材活用

11　育ちを支える魅力ある屋外環境の構成事例　視聴覚教材活用

12　生き物，植物, 自然現象と関わる事例　視聴覚教材活用

13　生活と繋がる文字や数量，標識等の関心を育てる事例　視聴覚教材活用

14　園外保育の意義と地域の異世代交流の事例　視聴覚教材活用

15　子どもの安全を確保するための環境構成の事例　視聴覚教材活用

授業時間外の学修

【事前学修】

・保育に関わる報道に常に関心を抱き,新聞記事等も保管すると同時に自分なりの考えや疑問を書きとめておく。(随時)

・既習で得た知識や身に付けた技術さらに教育実習を通しての経験を基に,環境を通した保育とは具体的にどんなことなのか，自分の考えをまとめておく。（1時間）

【事後学修】

・保育者を目指す者として，保育者の資質向上のための向上心をもって授業内でまとめた小レポートの再考と実践事例から学んだことを自分なりにまとめておく。（1時間）

評価方法

・授業への取り組み　20%
・提出物　30%
・定期試験　50%

提出物（課題レポート等）の評価基準

１．決められた字数内で、誤字脱字がなく文章表現が適切か（10%）
２．求められている課題に内容が即しているか（20%）
３．指定されたフォーマットに即して作成されているか（40%）
４．課題の考察が授業内容を加味したものになっているか（30%）

アクティブラーニング

・ 報道記事や実践事例をもとにグループディスカッションを実施。
・ 視聴覚教材における子どもや保育者の動きと環境の関りを観察し、保育者としての次の働き掛けや環境の再構想についてグループディスカッションを実施。
・ グループディスカッション後自分の経験や考えと関連させて振り返りをする。
・ 授業内にキーワードを挙げそれについての自分の考えを小レポートにまとめ、発表する。

フィードバック

・グループディスカッション後のグループ発表を相互に聞く際に,保育に対しての自分の考えが深まったり、違った視点の発見や視野が広がるような聞き方を課す。
・小レポートについては、 必ず内省できるような教員のコメントを記入し返却する。

実務経験

◯　小中学校や幼稚園または認定園の勤務経験を活かし、さらに附属園に勤務していた時の実践をまとめた資料に基づき、環境を通した保育とはどう在るべきかまでを自分の考えとしてまとめられる力を獲得させたい。保育者としての資質向上を目指そうとする姿勢が養えるようにしたい。

教科書

保育内容「環境」　秋田喜代美　（株）みらい

参考書

・保育所保育指針　厚生労働省
・幼稚園教育要領　文部科学省
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領　内閣府　文部科学省　厚生労働省

備考

グループディスカッションに、積極的に参加するには自分の考えを常にもっていることが重要なので、新聞やテレビその他からの幼児教育に関する情報については、関心をもってほしい。また幼児教育書の紹介もするので、積極的に活用し、保育者としての資質を向上させてほしい。

ナンバリング	24231		科目名	保育内容演習（言葉）

担当教員	綿引 喜恵子

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

乳児及び幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領・保育所保育指針、・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。また、実務経験を生かし乳児及び幼児の発達に即して、アクティブラーニングの技法を取り入れ具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けます。

到達目標

1.養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力が習得できます。
2.言葉遊びなど言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付け、乳児及び幼児の発達における児童文化財（絵本、紙芝居等）について理解し説明することができます。
3.領域「言葉」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができます。
4.指導案の構造を理解し具体的な保育を想定した指導案を作成することができます。
5.領域「言葉」において乳幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりが理解できるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　乳児及び幼児教育の基本

02　乳幼児期の言葉の発達

03　領域「言葉」について（DVD視聴後、ディスカッションする）

04　領域「言葉」のねらいと内容

05　子どもの発達過程と言語の獲得

06　言葉によるコミニュケーション（ロールプレイ）

07　幼児の言葉遊び・文字遊び（映像を基に指導計画を検討、教材研究する）

08　幼児の言葉遊び・文字遊び（指導案を作成、模擬保育、振り返り）

09　幼児と紙芝居（創作紙芝居を作成、模擬保育、、振り返り）

10　幼児と絵本（情報機器の活用法を理解し、保育の構想に活用）

11　絵本の読み聞かせの実践

12　生活や遊びを通しての言葉の育み

13　言葉への興味や関心を育てる環境

14　協同的経験をするとは（言葉に遅れのある子への関わり）

15　小学校への接続に向けて（アプローチ・スタートカリキュラム）まとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 その回のテーマの分からない用語等調べる。(約1時間) 【事後学修】 配布資料について復習すると共に、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。(約1時間)
評価方法	1 授業への取り組み20% 2 課題への取り組み20% 3 定期試験60%
アクティブラーニング	グループディスカッション　映像活用学習　クリエイティブ・セッション
フィードバック	提出レポート、指導案には、教員のコメントを記入して返却します。
実務経験	◯　幼稚園（副園長）で勤務していた実務経験を活かし、幼児の発達に添った関わり方について実践的な授業を行う。
教科書	授業で使用する資料については、すべて配布します。
参考書	幼稚園教育要領解説　文部科学省　フレーベル館　ISBN978−4−577−81448−2 保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館　ISBNN978−4−577−81449−9 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　フレーベル館ISBN978-4-577-81449-9
備考	グループディスカッションや演習を取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。自分で考えた意見や思いが言えるようにし、他のメンバーの意見を真摯に受け止め、再度考えて自分の意見を確かなものにすることを求めます。 授業内のレポートや指導計画について、個別のフィードバックを行います。

ナンバリング	24231		科目名	保育内容演習（表現）

担当教員	富田 浩子

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育、教育の基本を踏まえ、領域『表現』のねらい及び内容並びに全体構造を理解します。また、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域『表現』に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を修得(絵本等の作成等)し身に付けます。

到達目標

(1)乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解することができます(2)領域『表現』の特性及び幼児の体験と関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができます(3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができます(4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けます(5)領域『表現』の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　ガイダンス　領域『表現』とは何か

02　領域『表現』の歴史と内容

03　乳児保育の領域『表現』の指導方法及び保育の構想

04　1歳から3歳未満児の領域『表現』の指導方法及び保育の構想

05　3歳以上児の領域『表現』の指導方法及び保育の構想

06　1回から5回の振り返りと小テスト(1)
身体を介した表現の指導法(ごっこ遊び・劇的表現)

07　物を介した表現の指導法(造形的表現)

08　音を介した表現の指導法(音楽的表現)

09　領域『表現』と小学校教科等とのつながり

10　6回から9回の振り返りと小テスト(2)
保育現場における『言語表現』活動・声を出すことの練習

11　児童文化財と言語表現(絵本)

12　豊かな感性と表現を育む環境づくり

13　乳幼児期の表現に関わる現代的課題

14　手作り絵本の発表と評価

15　11回から14回の振り返りと小テスト(3)
まとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 乳幼児の種々の表現活動を考えノートにまとめる。 言語表現の課題への取り組み (約1時間) 【事後学修】 グループワークで学んだ表現活動をノートにまとめる。 言語表現の課題への取り組み (約1時間)
評価方法	授業への取り組み50%　レポート及び課題への取り組み25% 小テスト25% レポートの評価基準：1.字数や提出期限を守ることができている(10%)2.脱字がなく,表現が適切である(10%)3.内容がテーマに即して適切である(20%)4.子どもの内面に育つ表現が具体的に理解できている(30%)５.乳幼児期の発達が,正しく論理的に展開されている(30%)
アクティブラーニング	グループディスカッション　映像活用学修　製作
フィードバック	授業内レポートや発表について、その都度、フィードバックを行う。
実務経験	○　保育所、幼稚園に勤務していた実務経験を活かし、現場の具体的な事例を示しながら課題に取り組みます。
教科書	なし 適宜資料を配付します
参考書	保育所保育指針解説書(厚生労働省 フレーベル館)　幼稚園教育要領解説(文部科学省 フレーベル館)　幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府 他 フレーベル館)
備考	言語及び造形表現の課題が出ます。

ナンバリング	25263		科目名	子どもの健康と安全
担当教員	渡辺 政子			

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）
					☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☑ 選択（音療）

授業概要	関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における健康及び安全の管理、子どもの発達や体調不良等の状態に即した適切な対応について具体的に理解する授業です。また、健康や安全管理の計画や評価、組織的取組について具体的に理解する授業です。
到達目標	(1)子どもの体調不良やけが等について適切な対応を行うことができます。　(2)保育における適切な健康や安全の管理ができます。(3)健康や安全の管理のための関係諸機関との連携について説明できます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　授業の概略と到達目標についておよび子どもの健康と保育環境
演習：バイタルサインの測定

02　保育における衛生管理
演習：嘔吐物の適切な処理の仕方

03　子どもの事故防止および安全対策
演習：保育実習中のけがについて
（グループディスカッション）
幼児視野体験

04　危機管理と災害への備え(1)
演習：危険予知訓練シート(グループディスカッション)

05　救急処置及び心肺蘇生法(1)
演習：乳幼児の心肺蘇生法（AEDの使用方法を含む）

06　救急処置及び心肺蘇生法(2)
演習：気道異物除法

07　体調不良時の対応と応急処置
演習：手当ての仕方(ロールプレイ)

08　傷害時の対応と応急処置

演習：包帯法、三角巾の使い方

09　感染症の予防と発生時の対応
演習：感染症予防と対応についてのほけんだより作成

10　個別的な配慮を要する子どもへや障害をもつ子どもへの対応
演習：医療的ケア児への対応（グループディスカッション）

11　個別的な配慮を要する子どもへの対応(アレルギー疾患)
演習:アナフィラキシーショック時の対応とエピペンノの使い方

12　３歳児未満児の対応
演習：抱き方、沐浴の仕方、オムツの替え方

13　保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携
演習：虐待が疑われる場合のケース会議（ロールプレイ）

14　保育における保健活動の計画及び評価
演習：保健計画の作成（グループワーク）

15　課題発表

授業時間外の学修	【事前学修】 次回の授業内容を教科書で確認し、その内容について、実習中自分が見たり行ったりしたことをプリントにまとめる。(約1時間) 【事後学修】 状業で行った演習について、その手技や注意点をプリントにまとめる。さらに、授業の中で興味があった内容について各自調べプリントにまとめる。(約1時間)
評価方法	(1)授業への取り組み・提出プリント(40%)　(2)定期試験(60%) 15回の授業の後定期試験を実施する。
アクティブラーニング	グループディスカッション、ロールプレイ、グループワーク、体験学習
フィードバック	授業ごとに提出してもらうリアクションペーパーに、コメントや評価を記入して返却します。
実務経験	○　小中学校での養護教諭としての実務勤務を活かし、子どもの健康面安全面の指導や管理について実践的な授業を行います。
教科書	授業で現場で役に立つ　子どもの健康と安全演習ノート　小林美由紀編著　診断と治療社　ISBN978-4-7878-2532-2
参考書	「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年３月、厚生労働省） 「2018年改訂版　保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年３月　厚生労働省） 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）
備考	

ナンバリング	26241		科目名	特別支援教育の基礎

担当教員	白土 良子

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☑ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（上秘メ） ☑ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（プ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（プ） ☐ 選択（保） ☑ 選択（音療） ☑ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）

授業概要　本講義では、障害児に関する基礎的・基本的な知識を習得し、障害児保育の実践的な方法を学びます。また、インクルーシブ教育システムにおける障害児保育がいかなるものなのかを学びます。講義形態としてグループディスカッションなどを取り入れたり、レポート等を発表したりして支援方法を検討していきます。

到達目標
1．障害児に関する知識や支援方法を身につけることができます。
2．障害のある子をもつ親への向き合い方、保護者理解を深めるための方法を学ぶことができます。
3．特別支援教育に関する原理・制度・歴史を理解し、今日のインクルーシブ保育・教育について説明することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　特別支援教育の理念と歴史について
02　ICFとICIDH／合理的配慮と基礎的環境整備について
03　視覚障害の基礎・基本について
04　聴覚障害の理解と支援について
05　知的障害の理解と支援について
06　肢体不自由の理解と支援について
07　病弱・虚弱の理解と支援について
08　発達障害　学習障害／発達性協調運動障害の理解と支援について
09　注意欠陥・多動性障害／自閉症スペクトラムの理解と支援について
10　言語障害／情緒障害／多様なニーズのある子どもの理解と支援について
11　障害の重い子どもの理解と支援について
12　気になる子の教育・保育とアセスメントについて
13　個別の指導計画／個別の教育支援計画について
14　個別の指導計画／個別の教育支援計画の作成について

15　特別支援教育コーディネーターと園内支援体制について
16　連続性のある多様な学びの場と教育課程について
17　就学先決定の仕組みについて
18　小学校との連携の図り方について
19　障害のある子の保幼小連携とポイントについて
20　関係機関との連携について
21　各領域における指導の留意点について　健康／環境／人間関係
22　各領域における指導の留意点について　言葉／表現
23　インクルーシブ保育・教育について
24　子どもの遊びと感覚統合について
25　子どもの発達と気になる行動について
26　保育におけるアダプテッドについて
27　保護者支援・子育て支援ににについて
28　障害のある幼児の保護者との向き合い方について
29　園内・施設内連携の在り方について
30　今後の障害児保育の可能性について

授業時間外の学修	【事前学修】 講義前にテキストの該当する章を読み、分からないごくを調べる。また、特別支援教育や障害児に関連するニュースや新聞記事をノートにまとめておく。（約1時間） 【事後学修】 障害児に関係する講義内容について友人等とディスカッションを行い、自分の意見をノートに整理する。（約1時間）
評価方法	レポート50%、ミニレポート50% レポート等の評価基準 1　誤字脱字がなく、内容が分かりやすい（50%） 2　内容がテーマに沿っており論述的である（40%） 3　専門用語を解説し、理解している（10%）
アクティブラーニング	ペア・グループワーク、映像活用学習
フィードバック	ミニレポートには評価とコメントをつけて返却します。
実務経験	○　教育支援委員（専門委員）や特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの実務経験を活かし、特別支援教育に関する実践的な授業を行う。
教科書	野内友規・綿引清勝編著　2022年　『気になる子のインクルーシブ教育・保育』中央法規出版株式会社
参考書	必要に応じて講義内で紹介します。
備考	ノートもしくはプリントをきちんと整理し、自分の考えを整理しておくこと。

ナンバリング	25221		科目名	社会的養護II

担当教員	安藤 みゆき

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）	☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要	児童養護施設、乳児院、里親などでの子どもの生活や支援の実際について説明します。映像や報道資料、施設実習の各自の体験をもとに、ディスカッションをして考察を深めてゆきます。また、保育士が子どもたちの生活を支え、健全な発達を保障し、自立を支援するために必要なことは何かを学びます。さらに、子どもの養育における親以外の大人（保育士等）の役割、社会の果たすべき責任、社会的養護の現状の課題と展望ににについても学びます。
到達目標	（1）子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に説明することができます。（2）施設養護及び家庭養護の実際について説明することができます。（3）社会的養護に関わる相談援助の方法と・技術について理解することができます。（4）社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について説明することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション及び前期の社会的養護のまとめ

02　社会的養護における子どもの理解

03　社会的養護における子どもの日常生活支援について
グループディスカッション

04　社会的養護における治療的支援について
グループディスカッション

05　社会的養護における自立支援

06　施設養護の生活特性及び実際（1）乳児院

07　施設養護の生活特性及び実際（2）児童養護施設

08　施設養護の生活特性及び実際（3）児童心理治療施設、児童自立支援施設

09　家庭養護の生活特性及び実際

10　社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画の作成

11　社会的養護における記録及び自己評価

12　社会的養護における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践　ロールプレイ及びディスカッション

13　社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践　ロールプレイ及びディスカッション

14　今後の課題（1）社会的養護における家庭支援

15　今後の課題（2）社会的養護の課題と展望

授業時間外の学修	【事前学修】 子ども虐待、児童養護施設、乳児院等の報道に興味関心を持ち、新聞記事やネット記事をまとめておくようにしてください。また、児童養護施設などの社会的養護に関するドラマや映画やアニメなどについて、どのように施設や里親家庭に暮らす子どもたちを描いているのかを分析しておいてください。（約1時間） 【事後学修】 授業内容について友人や家族とディスカッションをして自分の意見を述べることができるようにしてください。（約1時間）
評価方法	提出物（レポートやformsでの回答）90%。授業中の発言内容など10%。 レポートの評価基準：１．字数や提出期限を守ることができている（10%）２．誤字脱字がなく、表現が適切である（10%）３．内容がテーマに即して適切である（30%）４．論理的にわかりやすく展開されている（20%）５．課題の考察が充分である（30%）
アクティブラーニング	グループデスカッション、ロールプレイ
フィードバック	学生がformsで回答したコメントの幾つかを次の授業で教員のコメントを添えて紹介する。
実務経験	○　児童心理治療施設で勤務していた実務経験を活かし、社会的養護について実践的な授業を行う。
教科書	授業で使用する資料については、すべて配布します。
参考書	夾竹桃ジン「ちいさいひと　青葉児童相談所物語」小学館　早川悟司他「子どもの未来をあきらめない　施設で育った子どもの自立支援」明石書店
備考	グループディスカッションや演習を取り入れた授業を行いますので積極的に参加することを求めます。

ナンバリング	24262		科目名	子育て支援

担当教員	森井 榮治

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☑ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

これまでの日本の子育て支援政策の流れを理解し、今後ますます社会全体で子育てを支援していく重要性が増すことを認識したい。園が「子育ち」と「親育ち」を支援していくこと、さらに「子どもの育ち」と「親の子育て」をともに支援していくことが保育者の役割であることを事例を通して考え、保育者として具体的かつ多様な支援内容や方法を学ぶ。

到達目標

(1) 現代社会状況の変化による子育て支援の必要性を理解することで、保育者に期待されている子育て支援について認識することができます。
(2) 子育て支援の現状と課題を確認し、子育て支援の意義を理解して、専門性を背景としたこれからの子育て支援の在り方を討議することで、保育者としての役割の認識を深めることができます。
(3) 現場の実態例や実践事例を通して、その特性や展開を具体的に理解し、場に応じた子育て支援計画や支援内容の立案を具体的に実施し、実践力を身に付けることができます。
(4) 社会環境の変化による多様なニーズの具体的な子育て支援計画や支援内容をグループ討議することで、園・保護者・地域等が一体となった子育て支援の仕組みの構築を目指す態度や姿勢を身に付けることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　子どもの保育とともに行う保護者の支援

02　日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互関係と信頼関係の形成

03　保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと多面的な理解

04　子どもの保育と保護者支援 (1)子ども及び保護者の状況把握

05　子どもの保育と保護者支援　(2)支援の計画と環境の構成

06　支援の実践・記録・評価・カンファレンス

07　職員間の連携・協働体制の構築

08　社会資源の活用と自治体・関係機関や専門機関との連携・協働

09　保育所等における支援

10　地域の子育て家庭に対する支援

11　障がいのある子どもとその家庭に対する支援

12　特別な配慮を必要とする子どもとその家庭に対する支援

13　子ども虐待の予防と対応

14　要保護児童等の家庭に対する支援

15　多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解

授業時間外の学修	【事前学修】 ・保育・次時の授業に関わる内容を教科書で確認をするとともに、関連する報道や、新聞記事等をファイリングする。同時に自分なりの考えや疑問を書きとめておく。（1時間) 【事後学修】 ・保育施設等が担う子育て支援と他の機関の子育て支援の連携の充実を目指すためには，一人の保育者として，今後どんな視点が必要になるか授業内でまとめたワークシートから再考する。(1時間)
評価方法	・授業への取り組み　30% ・提出物(ワークシート) 40% ・定期試験　30%
アクティブラーニング	・報道記事や実践事例、実習のときの体験をもとにグループディスカッションを実施する。 ・毎時間、授業のキーワードに基づくワークシートを活用し、授業内での調べ学習や話合い活動により自分の気づきや考えをワークシートにまとめる
フィードバック	・グループディスカッション後のグループ発表を相互に聞く際に,保育に対しての自分の考えが深まったり、違った視点の発見や視野が広がるような聴き方を課し、学びの深まりをワークシートにまとめる。 ・ワークシートの活用については,、必ず内省できるような教員のコメントを記入し返却する。
実務経験	○　小中学校や教育行政職において、生徒指導や教育相談を担当し教職員や子ども・保護者の支援に携わってきた実務経験、ひたちなか市の子ども子育て審議員を兼ねていることから、幼児教育の重要性と多様な家庭の支援について、現場の実態を通して、幅広い子育て支援についての習得を目指したい。「子育て支援」を保育施設等の一員としてばかりでなく、社会全体の大人の責務として認識できるようにしたい
教科書	新基本保育シリーズ19「子育て支援」　監修・公益財団法人児童育成会、編集・西村重稀　青井夕貴　中央法規
参考書	保育所保育指針　厚生労働省 幼稚園教育要領　文部科学省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領　内閣府　文部科学省　厚生労働省
備考	既習内容が重複するところも多いし、今までの習得した技術や実践力さらに実習で体験してきたことが十分に生かされることが期待される授業内容である。保育者を目指す者にとっては終盤の時期であるので、積極的に自分の体験や考えを堂々と発言することを望む。また他者の考えも受容するという姿勢も養いたい。

ナンバリング	24232		科目名	教育の方法と教育メディア
担当教員	佐藤 隆			

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☑ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（プ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（プ） ☑ 選択（保） ☐ 選択（音療） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）

授業概要

情報コミュニケーション技術の急速な発達は，教育方法に大きな影響を与えています。しかし，保育所や幼稚園，小・中学校において教育メディアの利用はコンピューターのみならず伝統的なメディア等を組み合わせて実践することでその目的を達成させています。授業では伝統的な視聴覚教材と情報・技術利用について体系的に学ぶとともに，メディアリテラシー教育を進め，諸活動における適切なメディアの選択や活用ができるよう考察し実践につなげます。

到達目標

(1)保育・教育活動において，適切な視聴覚メディアを選択・制作・活用できる基礎的な知識を身に付けます。
(2)保育・教育活動における活用場面を考えることができるとともに必要な教育の方法，教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　教育メディアとは～オリエンテーション～

02　教育メディアの種類と特徴

03　教育メディアとしての環境構成

04　デジタル教科書の是非を考える

05　教育メディアとして絵本（読み聞かせ）の効果

06　メディアの効果的な見せ方・演じ方

07　メディアの功罪を考える

08　メディアのが社会や教育に与える影響

09　想像力でメディア活用

10　教育メディアとしての新聞

11　教育メディアと遊び

12　教育メディアとしての博物館

13　教育メディアとしての園だよりやＨＰ

14　情報リテラシー（情報の受け取り方と発信の仕方）

15　メディアの中の子ども

授業時間外の学修	【事前学修】 シラバスで次回の授業内容を確認し，教科書の授業内容に関する部分を探してよく読むとともに，内容について調べてください。(約２時間) 【事後学修】 授業で配布する資料やワークシートをもとに，授業で学んだ内容について，さらに深く調べ，知識や考えを広げ深めてください。（約２時間）
評価方法	授業への取組(30%)　提出物及び課題レポート(50%)，定期試験（20%）
アクティブラーニング	グループディスカッション　ワークショップ
フィードバック	提出レポートに記入された意見や考え、感想、疑問を取り上げ、個別に対応するとともに必要に応じて全体にフィードバックします。
実務経験	○　小学校・中学校でのICT教育の実務経験を生かし，メディア教育の大切さと多様な指導法についてわかりやすく興味関心を高める授業を展開します。
教科書	
参考書	授業中に適宜資料を配布する。
備考	様々なメディアを幅広く取り上げ，教育における活用の可能性を検討します。話し合い活動を多く行います。積極的に発言してください。

ナンバリング	25232		科目名	保育指導法

担当教員	木村 久美子

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☑ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

「保育指導法」は、「人間関係」「環境」「言葉」などの領域ごとに学ぶ保育内容を統合し、総合的に関連 づけて理解するための科目です。保育の在り方の本質を探りながら状況に応じて目の前の子どもにふさわしいかかわりをするための方法について学んでいきます。保育所保育指針等、保育内容に関する基準を把握し、子どもの成長･発達の筋道について理解できるようにします。 そして、保育の営みの深さ、尊さを学ぶとともに、身近な事例に対したグループ・ディスカッションを通して、各自がそれぞれ、自分自身の問題として捉えられるようにします。

到達目標

(1)幼児期の発達の特性について理解し、発達の実情に応じた指導法を学び自分なりに説明ができるように なります。
(2)子ども理解に基づいた指導法の理解を深め、主体的な活動を支える保育者としての役割が理解できるようになります。
(3)保育の実践にあたり知識だけでなく、自分で判断する力を養うとともにさらに子ども理解のために深く身に付けることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　ガイダンス：保育方法とは何か

02　保育指導法を学ぶ意義について

03　子ども理解にもとづいた保育方法と評価
　養護的な関わり
　遊びが学びになる保育方法のために

04　子どもにとってふさわしい園生活を考える
　子どもの実態に即した柔軟な保育形態

05　養護と教育が一体となった保育の方法
　教育とは
　養護と教育が一体となった教育とは

06　環境を通した保育の方法

なぜ「環境を通した保育」なのか

07　遊びを通した保育の方法
　子どもが遊ぶということ

08　個と集団をいかした保育の方法について
　保育における個と集団

09　0・1・2歳児の発達のに応じた保育方法

10　3・4・5歳児の発達に応じた保育方法

11　保育の計画・実践・評価

12　家庭・地域と連携した保育

13　小学校との接続のデザイン
　スタートカリキュラム
　遊びと学びの関係

14　配慮を要する子どもへの保育方法　インクルーシブな保育の実現
(1)気になる子どもへの保育
(2)外国とかかわりのある子どもの場合

15　情報機器を活かした保育方法
　保育指導の方法についてのまとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 教科書を事前に読んでおき、わからない語句などを調べておく。保育に関するニュース等に関心をもち、新聞記事等の切り抜きをノートに貼ってまとめる。学修の目安は約2時間程度とする。 【事後学修】 授業のまとめを行う。その際、子どもの指導法について、自分の考えをまとめておく。学修の目安は約2時間程度とする。
評価方法	(1)授業への取り組み(30%) (2)定期試験(40%) (3)リアクションペーパー等の提出物(30%)
アクティブラーニング	グループディスカッション　映像活用学習
フィードバック	提出物には、評価及びコメントを記入して返却します。
実務経験	◯　公立小中学校及び公立幼稚園、私立認定こども園勤務経験有り
教科書	大豆生田啓友・渡辺英則　編著(2020)『保育方法・指導法』ミネルヴァ書房
参考書	内閣府　文部科学省　厚生労働省(2015)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
備考	筆記試験（小テスト）について、全体講評のフィードバックを行います。

ナンバリング	26121		科目名	ゼミナール

担当教員	国府田 はるか

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☑ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☐ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（上秘メ） ☑ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（プ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（プ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（音療） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）

授業概要

身体を用いた多様な活動や経験を通して学生自身が豊かな感性を磨くとともに、表現活動によって心身がどのように変化していくのかについて、理論と実践の両面から考察していきます。また、幼児教育・保育現場や子育て支援の場において身体表現ワークショップの計画・実施・省察を行うことで、保育者として求められる表現力や実践力を養います。この授業では、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション等のアクティブ・ラーニングの技法を取り入れます。

到達目標

幼児教育・保育現場や子育て支援の場における身体表現の在り方について理解し、自身の表現力や実践力を高めることができます。
生き生きと豊かに表現することのできる身体表現を修得し、子どもの表現を心とからだ全体で感受し共感し促し拡げることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 オリエンテーション　(1)ゼミナールの目的　(2)年間活動計画

02 幼児期における身体表現　(1)身体表現の実際　(2)援助・指導の方法

03 乳児期における身体表現　(1)身体表現の実際　(2)援助・指導の方法

04 身体表現ワークショップ1回目に向けての計画・ディスカッション

05 身体表現ワークショップ1回目に向けての準備・環境設定

06 身体表現ワークショップ1回目に向けてのリハーサル・ロールプレイ

07 身体表現ワークショップ1回目（3・4歳児）

08 身体表現ワークショップ1回目の振り返り・省察・エピソード記録

09 身体表現ワークショップ2回目に向けての計画・ディスカッション

10 身体表現ワークショップ2回目に向けての準備・環境設定

11 身体表現ワークショップ2回目に向けてのリハ―サル・ロールプレイ

12 身体表現ワークショップ2回目（1・2歳児）

13　身体表現ワークショップ2回目の振り返り・省察・エピソード記録

14　校外学習　(1)舞台鑑賞　(2)表現手法への理解

15　半年間のまとめ　(1)身体活動の振り返り　(2)実習への抱負

16　各実習後のまとめ　(1)新たな課題と自己評価　(2)研究テーマとの関連

17　身体表現ワークショップ3回目に向けての計画・ディスカッション

18　身体表現ワークショップ3回目に向けての準備・環境設定

19　身体表現ワークショップ3回目に向けてのリハーサル・ロールプレイ

20　身体表現ワークショップ3回目（子育て支援）

21　身体表現ワークショップ3回目の振り返り・省察・エピソード記録

22　身体表現ワークショップ4回目に向けての計画・ディスカッション

23　身体表現ワークショップ4回目に向けての準備・環境設定

24　身体表現ワークショップ4回目に向けてのリハーサル・ロールプレイ

25　身体表現ワークショップ4回目（子育て支援）

26　身体表現ワークショップ4回目の振り返り・省察・エピソード記録

27　卒業レポート　(1)課題の選定

28　卒業レポート　(1)目的および方法

29　卒業レポート　(1)結果および考察

30　まとめ　(1)振り返り

授業時間外の学修

【事前学修】

自身の研究課題を見いだし、日々の生活の中でそれらについて探求するように努めてください。ワークショップに際しては、主担当を中心にリハーサルを行ってください。

【事後学修】

ワークショップ後には、省察をもとに次回への課題を見いだし、学修への意欲に結びつけてください。また、普段から身の回りの様々な事象に興味関心をもち、心を動かされる体験をしておくことが、豊かな感性に基づく身体表現へと結びつきます。事前事後学修の目安は合計約2時間程度とします

評価方法

授業への取り組み(30%)、ワークショップや実技発表への姿勢(40%)、卒業レポート(30%)等によって総合的に評価します。
レポートの評価基準　(1)字数や提出期限を守ることができている (20%)　(2)誤字脱字がなく、表現が適切である (20%)　(3)内容がテーマに即して適切である(30%)　(4)考察が充分である(30%)
実技発表の評価基準　(1)笑顔で踊ることを楽しんでいるか (20%)　(2)全身を大きく使って踊っているか (20%)　(3)生き生きと世界観を表現しているか (20%)　(4)観客に伝えようという意欲があるか (20%)　(5)チームで協力して練習を行っていたか (20%)

アクティブラーニング

グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション

フィードバック

本授業では各回のエピソード記録や卒業レポートに関し、個別のフィードバックもしくは全体講評のフィードバックを行います。

実務経験

教科書

「保育内容　表現　からだからはじまる保育のアート―創造と表現がつながってあふれる―」西洋子・本山益子・岡本雅子 編著、2018、市村出版

参考書

小冊子「からだであそぼう！現場ですぐに使える運動・表現あそび」国府田はるか、2020
その他、テーマに応じて参考文献・参考資料を紹介します。

備考

実技、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション等を取り入れた授 業を行うため、積極的かつ主体的な取り組みを望みます。また、他者の意見や表現を受け入れ共感するとと もに、共に創りあう姿勢を心がけてください。

ナンバリング	26121		科目名	ゼミナール

担当教員	馬立 明美

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☑ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☐ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要　音楽の力や効果、子どもが音楽を体験する意義を考え、音やリズムを奏でたり合わせたりする楽しさを味わいます。
幼児・児童施設等での音楽活動、学内での『2歳児親子音楽あそび』＜ポップ＞の運営を行い、音楽を通して子育て支援を視点とした、子どもと保護者とのかかわりを考察し、実践します。

到達目標　(1)親子参加の音楽の楽しみ方を研究します。
(2)親子音楽あそびを実施し、その効果について考察します。
(3)音楽あそび実践までのプロセスが説明できます。
(4)音楽あそびを通して保護者との関わり方を学びます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション、年間計画
02　子どもの音楽あそびについて１　(1)歌唱、手遊び歌、伴奏法
03　子どもの音楽あそびについて２　(2)楽器の種類や鳴らし方・身体運動
04　親子音楽活動について　子育て支援/保護者支援
05　子育て支援音楽活動　(1)計画　(2)指導案・プログラム作成
06　子育て支援音楽活動　(1)用具準備　(2)練習
07　子育て支援音楽活動（ぬかっぽ）実施
08　子育て支援音楽活動（ぬかっぽ）実施
09　子育て支援音楽活動　(1)振り返り　(2)次回の準備
10　子育て支援音楽活動　(1)事前準備　(2)練習
11　子育て支援音楽活動（1)教材準備（2)練習
12　子育て支援音楽活動（ぬかっぽ）実施
13　子育て支援音楽活動（ぬかっぽ）実施

14　子育て支援音楽活動　振り返り

15　親子音楽あそびポップ　事前指導
　　保護者とのかかわり、子どもへの声かけ、心がまえ

16　親子音楽あそび　準備（指導案・プログラム）
　名札　出席カード作成

17　親子音楽あそびポップ　1の事前準備
　プログラム・道具作成・練習

18　親子音楽あそびポップ　用具準備と練習

19　親子音楽あそびポップ1　リハーサル、実施

20　親子音楽あそびポップ１の振り返り　2の事前準備
　プログラム・道具作成・練習

21　親子音楽あそびポップ　用具準備と練習

22　親子音楽あそびポップ２　リハーサル、実施

23　親子音楽あそびポップ２の振り返り　3の事前準備
　プログラム・道具作成・練習

24　親子音楽あそびポップ　用具準備と練習

25　親子音楽あそびポップ３　リハーサル、実施

26　親子音楽あそびポップ３の振り返り　４の準備
　プログラム・道具作成・練習

27　親子音楽あそびポップ　用具準備と練習

28　親子音楽あそびポップ４　リハーサル、実施

29　音楽あそびポップ 振り返りとまとめ

30　一年間の振り返りとまとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 多くの歌（童謡・季節の歌・jポップなど）を覚えて歌っておいてください。また、家族や周りの人に好きな歌をリサーチしておいてください。子どもや保護者への挨拶、声かけの言葉を考えておきましょう。（約1時間） 【事後学修】 音楽セッションをしっかり振り返り、子どもの表情や行動を記憶して記録しておいてください。（約1時間）
評価方法	授業への取り組み40%、ポップに取り組む姿勢40%、提出物（毎回のリアクションペーパー）20%
アクティブラーニング	グループディスカッション　クリエイティブセッション
フィードバック	音楽セッション後、その都度振り返り、互いのコメントを次回のセッションに繋げると共にリアクションペーパーに記入し、教員がコメントを記入して返却します。
実務経験	○　小学校、市民センター、保健センター、こども園等での子育て支援を目的とした『音楽あそび』また、障害児施設での音楽療法の経験を活かし実践的な授業を行う。
教科書	必要に応じてプリント等を配布
参考書	必要に応じてプリント等を配布
備考	・音楽活動毎に提出してもらうリアククションペーパーにコメントや評価を記入して返却します。

ナンバリング	26121		科目名	ゼミナール

担当教員	加茂川 くるみ

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☑ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☐ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（上秘メ） ☑ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（プ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（プ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（音療） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）

授業概要　幼児期までに育ってほしい姿(7)自然との関わり・生命尊重に焦点をあて、子どもの自然や科学に対する好奇心について掘り下げ、保育者として幼児の好奇心や探究心を育んでいけるような保育現場における実践力を高めることを目指します。科学施設への見学や幼児への実演などグループワークを取り入れることで実感をもって学んでいけることを目指します。

到達目標　(1)子どもの自然や科学に対する「好奇心」がどのように芽生え、育まれいくのか、自分自身も実体験しながら考えたり調べたりすることで、子どもの目を通した自然科学について気付きを広げます。(2)実際に科学施設を見学したりすることで、子どもが自然科学のもつ「不思議」や「面白さ」と出会えるような保育の環境作りにつなげることができます。(3)ワークショップ等でグループ相互に研究成果を発表したりディスカッションをすることにより，相互評価能力を向上させたり、実践的に役立つコミュニケーション能力を向上させることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション(1)ゼミナールの目的(2)年間活動の見通し

02　幼児期までに育ってほしい姿について
小学校教育との接続カリキュラムについて(7)自然との関わり・生命尊重について

03　教材研究の資料収集 (1)子どもが自然科学 (昆虫等小動物) に興味関心をもつ絵本等について 感想や工夫について意見交換

04　教材研究の資料収集 (2)子どもが自然科学 (動物) に興味関心をもつ絵本等について 感想や工夫について意見交換

05　教材研究の資料収集 (3)子どもが自然科学（植物）に興味関心をもつ絵本や図鑑等について 感想や工夫についての意見交換

06　教材研究の資料収集 (4)子どもが自然科学 (環境問題) に興味関心をもつような資料や情報について 感想や意見交換

07　自己課題研究・テーマ検討と課題設定の理由

08　自己課題研究・ディスカッション　小グループにおけるテーマの紹介と意見交換会

09　自己課題研究・研究テーマの再検討・研究計画

10　自己課題研究・研究テーマ決定・研究計画

11　自己課題研究・研究テーマの発表・自己研究開始

12　グループワーク（実演）・保育現場での実演共同活動の計画と準備

13　グループワーク（実演）・共同活動の展開と工夫

14　グループワーク・共同制作活動での実技体験 (1)役割演技（課題検討）

15　グループワーク・保育現場での体験学習 (2)保育園ボランティア（夏祭り出前実験参加）

16　自己課題研究・研究発表に向けての教材研究と準備1

17　自己課題研究・発表発表に向けての教材研究と準備2

18　自己課題研究・研究発表に向けての教材研究と準備3

19　現場体験（施設見学）と情報収集・科学施設の調査・見学場所の選定・見学計画

20　現場体験（施設見学）と情報収集・見学の実施

21　現場体験（施設見学）と情報収集・見学の記録と発表資料作成

22　現場体験（施設見学）と情報収集・発表会・意見交換会

23　現場体験から活かす・共同作品・実験Ⅰ

24　現場体験から活かす・共同作品・実験Ⅱ

25　自己課題研究・卒業レポートのついての検討

26　自己課題研究・卒業レポート作成にあたっての理解

27　自己課題研究・卒業レポート作成・指導

28　自己課題研究・卒業レポート作成・指導

29　自己課題研究・卒業レポート作成・指導

30　卒業レポート発表 (1)各自研究発表 (2)1年間の振り返り (3)レポート提出

授業時間外の学修	【事前学修】 身の回りの自然や科学の事象に目を向け、「不思議だ」と思う気持ちに敏感になってみましょう。子どもが面白そうだと心引かれるような実験を調べたり、考えたりしましょう。子どもが興味を持って見たり読んだりする絵本や図鑑を調べてみましょう。科学施設の情報を積極的に集めましょう。 学修の目安は約1時間程度とします。 【事後学修】 子どもの自然科学に対する興味関心を高められるように、子どもの目線を大切にした保育環境を考え、実習現場などで試行してみましょう。自分自身の環境への問題意識も高められるようにしてください。学修の目安は約1時間程度とします。
評価方法	授業の取り組み（50%）課題・研究に取り組む姿勢（50%）
アクティブラーニング	グループディスカッション　ワークショップ　　模擬実験体験　　施設見学
フィードバック	グループディスカッションや役割演技等を行い、研究の成果や実験の演示などについて相互評価を行います。自然・科学に対する考え方が深まるための環境作りについて、それぞれの意見を交換することで全体評価でフィードバックを行います。
実務経験	○　幼稚園の実務経験を活かし、保育者に求められる力量となる専門性を伝達し実践的な授業を行う。
教科書	必要に応じてプリントを配布
参考書	子ども向け科学辞典や図鑑・雑誌など 課題に応じて文献資料を紹介
備考	本ゼミナールでは、認定子ども園大成学園幼稚園の幼児に簡単な実験など実演したり、科学館など施設見学も正規の授業時間以外で行うこともあります。一人ひとりが自覚と責任をもって行動する力を養い保育者としてふさわしい態度で臨んでいきましょう。授業内に課したレポートについては、その都度フィールドバックを行います。

ナンバリング	26121		科目名	ゼミナール

担当教員	八木澤 香菜

年度	2024	年次	□ 1 ☑ 2	学科	□ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	□ 前期 □ 後期 ☒ 通年	単位	□ 1 ☒ 2 □ 3 □ 4	授業方法	□ 講義 ☒ 演習 □ 実技 □ 実習

区分		資格関連				
	☑ 必修（卒）		□ 必修（幼）	□ 必修（上秘）	□ 選択必修（プ）	□ 選択（上秘メ）
	□ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	□ 必修（上秘メ）	□ 選択（幼）	□ 選択（プ）
	□ 選択（卒）		□ 必修（音療）	□ 必修（プ）	□ 選択（保）	□ 選択（音療）
	□ 選択		□ 必修（准）	□ 選択必修（幼）	□ 選択（司）	
			□ 必修（司）	□ 選択必修（保）	□ 選択（上秘）	

授業概要　⑴保育現場等で音楽活動の実践を通して、リトミックの意義や音楽活動の方法について実践的に学びます。
⑵グループディスカッションやロールプレイで音楽について考え、音を体で表現することを通して音楽を介した自己表現の楽しさを伝えられる保育者を目指します。
⑶幼児音楽やリトミックの歴史、指導方法を学び保育現場での実践方法について自ら考えを深めていきます。

到達目標　⑴保育現場等でリトミックや音楽活動を実践することにより、保育における音楽活動やリトミックの役割や意味を理解することができます。
⑵グループディスカッションやロールプレイを通し、学生自身のコミュニケーション力を深め、学生同士で高め合うことができます。
⑶リトミックや幼児音楽の歴史、指導方法を学ぶことにより、保育現場で年齢や状況に応じた実践方法を見出すことができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- □ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- □ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- □ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- □ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01	リトミックとは何か　⑴リトミックの歴史　⑵指導法　⑶教具について（ロールプレイ）
02	音楽あそびの意義・実践　⑴わらべうた　⑵手遊び　⑶童謡唱歌
03	音楽絵本１
04	校外学習　リトミック講習会への参加
05	音楽活動ワークショップ　計画・指導案作成（ディスカッション）
06	音楽活動ワークショップ　準備・練習（ロールプレイ）
07	音楽活動ワークショップ　リハーサル（ロールプレイ）
08	音楽活動ワークショップ　第1回実践
09	音楽活動ワークショップ　振り返り・省察・第2回の計画・指導案作成
10	音楽活動ワークショップ　準備・練習（ロールプレイ）
11	音楽活動ワークショップ　リハーサル（ロールプレイ）

12　音楽活動ワークショップ　第2回実践

13　音楽活動ワークショップ　振り返り・省察

14　半年間のまとめ１　⑴グループディスカッション

15　音楽絵本２

16　実習のまとめ　⑴実習先での音楽活動について発表・記録

17　音楽活動ワークショップ　第3回の計画・指導案作成（ディスカッション）

18　音楽活動ワークショップ　準備・練習（ロールプレイ）

19　音楽活動ワークショップ　リハーサル（ロールプレイ）

20　音楽活動ワークショップ　第3回実践

21　音楽活動ワークショップ　振り返り・省察・第4回の計画・指導案作成

22　音楽活動ワークショップ　準備・練習（ロールプレイ）

23　音楽活動ワークショップ　リハーサル（ロールプレイ）

24　音楽活動ワークショップ　第4回実践

25　音楽活動ワークショップ　振り返り・省察

26　卒業レポート　1年間の活動成果のまとめ

27　卒業レポート　課題の選定

28　卒業レポート　作成

29　卒業レポート　発表

30　１年間のまとめ・ふりかえり

授業時間外の学修	【事前学修】 様々なメディアを駆使し、幼児音楽やリトミックに関する情報に目を通してください。 童謡、唱歌、わらべうた等、たくさんの曲を聴いて覚えられるよう努めてください。（事前学習の目安は約1時間程度とする） 【事後学修】 授業内で使用した曲を、年齢・活動に沿った弾き方ができるよう検討してください。 授業で学修した内容を振り返り、自分や友人の考察を含めノートに記録してください。（事後学習の目安は約1時間とする）
評価方法	授業への取り組み50%　提出物、課題、研究への取り組み50%
アクティブラーニング	グループディスカッション、ロールプレイ
フィードバック	各回の考察、記録をリアクションペーパーに記入・提出し、コメントをつけて返却します。
実務経験	○　認定こども園、音楽教室での実務経験を生かし、幼児音楽に関する具体的な事例を示しながら、実践的な授業を行う。
教科書	必要に応じてプリントを配布。
参考書	課題に応じて文献資料を紹介。
備考	保育現場の訪問等、授業時間外の活動もあります。 リアクションペーパーをもとに、全体講評や意見交換等フィードバックを行います。

ナンバリング	26121		科目名	ゼミナール

担当教員	白土 良子

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☑ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☐ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

１．障害のある子や気になる子についての理解を深めます。
２．保育現場・教育現場で活用できる特別支援教育に関するスキルを学びます。
３．それぞれの研究テーマに基づき、グループディスカッションを行うことで知識・理解を深めると同時に実践的に役に立つコミュニケーションやプレゼンテーションの仕方を学びます。
4. 特別支援学校等の見学により特別支援教育についての視野を広めます。

到達目標

１．特別支援教育の意義や障害の概要、多様な学びの場を説明することができます。
２．障害種に応じた、適切な支援方法を具体的に述べることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 オリエンテーション
・ゼミナールの目的
・活動の見通し
02 特別支援教育の考え方について
03 各障害について調査研究(文献)
04 各障害について調査研究(資料作成)
05 各障害について調査研究（レジュメ作成）
06 各障害について調査研究（報告）
07 各障害について調査研究（報告）
08 自己課題研究テーマ及び設定理由検討
09 保育実習における支援の必要な子どもについて(事例検討)
10 特別支援学校見学Ⅰ(事前学習)
11 知的障害特別支援学校見学
12 支援の必要な子どもの教材について調査(文献)

13　支援の必要な子どもの教材作成

14　支援の必要な子どもの教材発表

15　特別支援学校見学Ⅱ(事前学習)

16　聴覚特別支援学校見学

17　施設実習における配慮を要する子どもの事例報告について

18　施設実習における配慮を要する子どもの事例報告と支援方法について

19　課題研究レポートのまとめとパワーポイント作成について

20　課題研究レポートのまとめとパワーポイント作成について

21　課題研究レポートのまとめとパワーポイント作成について

22　課題研究レポートのまとめとパワーポイントの完成について

23　課題研究レポートの最終確認（目的・方法、内容、考察等、記入方法の確認）

24　課題研究レポートの最終確認（文献活用の方法、文末脚注の付け方など）

25　課題研究レポートの最終確認（文献活用の方法、体裁の確認）

26　課題研究レポートの発表について（５名程度）

27　課題研究レポートの発表について（５名程度）

28　課題レポートの発表について(５名程度)

29　課題レポートの完成と振り返りについて

30　１年間の研究の成果と課題の整理について

授業時間外の学修	【事前学修】 自分の研究テーマに関連する文献を調べ、ワークシートやノートにまとめる。特別支援教育（障害児保育）に関する情報（新聞・ニュース等）を考察してノートに整理する。（約1時間） 【事後学修】 自分の研究テーマの進捗状況について確認したり、分からない用語については図書館で調べること。（約1時間）
評価方法	課題研究・発表(60%)、各障害調査研究発表・ミニレポート(40%)
アクティブラーニング	グループワークショップ
フィードバック	レポートを毎回提出し、評価とコメントをつけて返却します。
実務経験	○　特別支援学校の実務経験を活かし特別支援教育に関する実践的な授業を行う。
教科書	なし
参考書	各自のテーマに応じて参考文献・参考資料を紹介します。
備考	授業内の発表や小テストについては、全体講評のフィードバックを行います。

ナンバリング	25121		科目名	総合表現

担当教員	国府田/馬立/加茂川/白土/森井/八木澤/長谷川

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☑ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☐ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

こども学科で学んだ表現技術の集大成として、演劇（言語）、演奏（音楽）、美術（造形）、ダンス（身体）等の表現手法を取り入れた舞台作品を創作することで、豊かな感性を育むとともに、保育者としての創造力や表現力を育みます。また、グループ創作を通じて表現の多様性を認め、他者の表現を受けとめ促し拡げていく姿勢を養います。この授業では、映像活用学習、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション等のアクティブ・ラーニングの技法を取り入れます。

到達目標

1年次、2年次に各科目で学んだ内容を基礎として、舞台で表現するための心構えや技術を修得し、協働体験を通して自主的・主体的に活動することができるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション　(1)舞台で表現するための心構え

02　台本・展開案作成(1)発表内容の検討(2)作品イメージの共有

03　台本・展開案作成(1)照明の検討(2)音響・効果音の検討

04　学内リハーサル(1)台本の読み合わせ(2)構成および展開の整理

05　練習と製作(1)台本・展開案の修正(2)舞台衣装の製作

06　練習と製作(1)立ち稽古(2)大道具・小道具の製作

07　学内リハーサル(1)作品完成度50%

08　立ち稽古および会場スタッフとの打ち合わせ(1)音響設備、照明設備の確認

09　学内リハーサル(1)作品完成度75%

10　立ち稽古(1)大道具、小道具を使用しての稽古

11　通し稽古(1)舞台衣装を着用しての稽古

12　学内リハーサル(1)作品完成度98%

13　通し稽古(1)1年生との打ち合わせ

14　会場リハーサルおよび学内リハーサル(1)大道具搬入(2)リハーサル

15　こども学科発表会(1)ゲネプロ(2)本番

授業時間外の学修	【事前学修】 普段から身の回りの様々な事象に興味関心をもち、こころを動かされる体験をしておくことが、豊かな感性に基づく表現へと結びつきます。また、可能な限り、劇場や美術館等の文化施設に足を運んだり、映画や本に親しんだりすることで、表現手法への理解を深めておいてください。 【事後学修】 台本や展開案をよく読み込み、表現の質を高めるための個人練習やグループ練習を心がけてください。事前事後学修の目安は合計約2時間程度とします。
評価方法	練習・リハーサル・本番への取り組み(60%)、作品の完成度(20%)、振り返りレポート(20%)等によって総合的に評価します。 レポートの評価基準　(1)字数や提出期限を守ることができている (20%)　(2)誤字脱字がなく、表現が適切である (20%)　(3)内容がテーマに即して適切である(30%)　(4)考察が充分である(30%)
アクティブラーニング	映像活用学習、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション
フィードバック	個人の課題やグループごとに毎回提出する授業シートについて、個別のフィードバックもしくは全体講評のフィードバックを行います。
実務経験	○　水戸芸術館演劇部門学芸員（ACM劇場専属劇作家・演出家）として勤務していた教員や、音楽分野・ダンス分野で舞台活動を行う教員らの経験を活かし、舞台作品創作に関する実践的な授業を行います。
教科書	なし
参考書	テーマに応じて参考文献・参考資料・参考映像を紹介します。
備考	映像活用学習、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション等を取り入れた授業を行うため、積極的かつ主体的な取り組みを望みます。また、グループのメンバーと切磋琢磨し共に創りあう姿勢を心がけてください。

ナンバリング	26211		科目名	教育実習

担当教員	加茂川/森井/助川/安藤/佐藤/国府田/馬立/白土/小口/八木澤

年度	2024	年次	☑ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	○ 前期 ○ 後期 ● 通年	単位	○ 1 ○ 2 ○ 3 ● 4	授業方法	○ 講義 ○ 演習 ○ 実技 ● 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

教育実習の目的と意義を理解し、幼稚園の役割や機能について学びます。幼稚園における幼児の生活と幼稚園教諭の役割や援助について理解していきます。実習園の実情にそって指導計画の立案や記録の整理（実習日誌等）を学びます。総合的な保育技術を習得していきます。

到達目標

(1)幼稚園の機能や役割について具体的な実践を通して理解を深めます。
(2)幼児の観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育への理解を深めます。
(3)既習の知識、技術を活かして実習に取り組むことで、計画・実践･観察・記録・自己評価等について理解を深めると共に、幼稚園教諭の職務への自覚を深めます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

1年次　教育実習（認定こども園大成学園幼稚園・かさまこども園）　7日間
2年次　教育実習（外部）　13日間

以下の内容に準じて実施する。
・幼稚園の環境(人的・物的)条件を知る。
・教育方針や保育状況などについて、実態を全体的に把握し理解する。
・保育の一日の流れや活動を理解する。
・教師の職務内容と役割を理解する。
・施設、設備、器具、用具の配置等から、教師や幼児はどのようにして工夫し活用しているかを知る。
・発達段階に応じた幼児への理解や、個々のケースへの理解を深める。
・指導のねらいを明確にした上で教材の準備を整え、部分実習を行うことを通して体験的に学ぶ。
・部分実習の指導計画の立案や、展開・評価について学ぶ・
・保育の展開過程における、教師と幼児の関わりを理解する。
・保育環境の重要性を理解し、その設定について学ぶ。

授業時間外の学修

【事前学修】

部分実習について計画し、準備する。また部分実習の指導案を作成し、指導を受ける。指導された点について改善する。(約１時間)

【事後学修】
その日の実習を振り返り、省察し、実習日誌に記録する。また自己の取り組みを振り返り、保育者として資質・力量の向上に努める。(約１時間)

評価方法	外部評価（70%）実習日誌（30%）
アクティブラーニング	幼稚園等で実習をする。
フィードバック	実習日誌や部分実習の反省について、個別のフィードバックを行います。
実務経験	
教科書	
参考書	実習ガイドブック　茨城女子短期大学 ﾌｫﾄﾗﾝｹﾞｰｼﾞで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画 幼稚園教育要領
備考	

ナンバリング	24221		科目名	保育実習指導I-B

担当教員	白土 良子

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

施設実習の目的と意義を理解し、児童福祉施設の役割や機能について学びます。施設における子どもの生活と保育士の援助や役割について考察を深めてゆきます。実習日誌の重要性と書き方の留意点、さらに子どもの人権の配慮、プライバシーの保護と守秘義務について説明します。さらに自己省察により、自己の実習の課題を明確にして、実習に臨めるようにします。

到達目標

（1）実習の意義・目標を踏まえて実習日誌を書くことができます。（2）保育所・幼稚園実習との違いや施設の実習内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができます。（3）実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について説明することができます。（4）実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に説明することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション、実習の目的と意義

02　施設における子どもの生活と保育士の援助や関わりの概要

03　施設の役割と機能

04　実習に際しての留意事項（1）子どもの人権と最善の利益の考慮（2）プライバシーの保護と守秘義務　ロールプレイ及びディカッション

05　子どもの観察とその記録

06　個々の状態に応じた援助や関わり　ロールプレイ及びディスカッション

07　施設における子どもの生活と環境の重要性

08　実習日誌の重要性と書き方の留意点

09　実習日誌におけるエピソード記録の方法

10　記録に基づく省察と自己評価、実習の課題の明確化

11　外部講師の講話と質疑応答

12　専門職としての保育士の役割と倫理

13　職員間の役割分担や連携

14　実習の事後指導（振り返りシートの記入）

15　実習の事後指導（事例検討、グループディスカッション）

授業時間外の学修	【事前学修】 実習先施設の沿革・方針・特色について調べておいて下さい。参考文献として紹介した本など、施設に関する本を読んでまとめてください。（約1時間） 【事後学修】 事例を基に実習日誌や余暇活動の指導案の練習をしてください。家庭において家事などの環境整備について練習しておいてください。（約1時間）
評価方法	授業への取り組み（20%）レポート（80%） レポートの評価基準：1．字数や提出期限を守ることができている（10%）2．誤字脱字がなく、表現が適切である（10%）3．内容がテーマに即して適切である（30%）4．論理的にわかりやすく展開されている（20%）5．課題の考察が充分である（30%）
アクティブラーニング	ロールプレイ、グループディスカッション
フィードバック	授業内レポートに関して、個別のフィードバックを行います。
実務経験	◯　特別支援学校での勤務経験を活かし、実践的な授業を行います。
教科書	改定版　施設実習パーフェクトガイド　守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵　わかば社 実習ガイドブック　茨城女子短期大学こども学科
参考書	「明日の子供たち」有川浩　幻冬舎　「夢をかなえる力」読売光と愛の事業団　「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」神永直美　萌文書林
備考	授業内レポートに関して、個別のフィードバックを行います。 ロールプレイやディスカッションは積極的に参加してください。 なお、実習指導の授業は、無断欠席、遅刻は認められていないので、注意してください。

ナンバリング	24221		科目名	保育実習I（施設）

担当教員	白土/助川/佐藤/安藤/国府田/馬立/加茂川/小口/森井/八木澤

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	◉ 前期 ○ 後期 ○ 通年	単位	○ 1 ◉ 2 ○ 3 ○ 4	授業方法	○ 講義 ○ 演習 ○ 実技 ◉ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

児童福祉施設等において実習を行い、施設の役割や機能を具体的に理解します。施設における子どもの生活と保育士の援助や関り、さらに実習の記録に基づく省察や自己評価について実践的に学びます。

到達目標

（1）子どもの観察や関りを通して、子どもの生活と保育士の関わり、施設の役割と機能について理解を深めることができます。（2）子どもの心身の状態に応じた関わりを配慮することができます。（3）保育士の業務内容、他の職種の職員との役割分担と連携について説明することができます。（4）人権に配慮した守秘義務の重要性を具体的に理解することができます。（5）記録に戻づいた省察や自己評価について考察を深めることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

児童福祉施設等において、以下の内容をもとに10日間の実習を行う。

１．施設の役割と機能（1）施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり（2）施設の役割と機能

２．子どもの理解（1)子どもの観察とその記録（2）個々の状態に応じた援助や関わり

３．施設における子どもの生活と環境（1）計画に基づく活動や援助（2）子どもの心身の状態に応じた生活と対応（3）子どもの活動と環境（4）健康管理、安全対策の理解

４．計画と記録（1）支援計画の理解と活用（2）記録に基づく省察、自己評価

５．専門職としての保育士の役割と倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理

授業時間外の学修

【事前学修】

実習の目標を具体的に検討してください。(約1時間)

【事後学修】

実習内容を省察し、実習日誌に記録してください。(約1時間)

評価方法

外部評価70％　実習日誌30％

アクティブラーニング

児童福祉施設等で実習をする。

フィード

実習日誌や実習のリフレクションペーパーの個別のフィードバックを行います。

バック

実務経験	◯　児童福祉施設（児童心理治療施設）職員の実務経験を活かし、実践的な実習指導を行います
教科書	「実習ガイドブック」茨城女子短期大学 「改定版　施設実習パーフェクトガイド」　守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵　わかば社
参考書	フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画　神永直美　萌文書林

備考　それぞれの実習先の状況に即して、実習を行います。

実習施設への感謝を忘れずに真摯な態度で実習に臨むようにしてください。
実習日誌や実習のリフレクションペーパーの個別のフィードバックを行います。

ナンバリング	24322		科目名	保育実習指導II

担当教員	国府田 はるか

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☑ 選択必修（保） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

(1)6月に実施される保育実習Ⅱと9月の教育実習に向けて、これまでに各教科で修得してきた知識及び技能と1年次の実習を経て積み重ねられた経験を統合し、総合的に実践する応用力を養います。また、しっかりとした目的意識をもち実習に臨んだり、将来へのビジョンをもてるようにしたりします。(2)実習前の準備と実習後の振り返りを行います。その際、クリエイティブチームに分かれてディスカッションを行い、課題を共有します。(3)保育の最新事情等の情報を収集したり調べたりすることで、各自が実践的研究を進めます。

到達目標

(1)実習に関係する手順を理解し、スムーズに手続きができるようになります。(2)指導計画や実習日誌の書き方、考察の仕方を学習し、実際に書くことができるようになります。(3)実際に保育の場で子どもと関わるための、専門知識や技術が身に付きます。(4)社会人となるための基本的なマナーや礼儀を習得することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 実習ガイドブックに基づく実習の意義・目的・内容の理解

02 保育実習Ⅰの振り返りおよび整理

03 保育実習Ⅰの振り返りおよび今後の課題

04 保育実習Ⅱおよび幼稚園実習の書類準備

05 0,1歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究

06 2,3歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究

07 4,5歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究

08 保育実習に向けての心構えおよび準備

09 保育実習Ⅱの振り返りおよび今後の課題

10 幼稚園実習における3歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究

11 幼稚園実習における4歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究

12 幼稚園実習における5歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究

13　幼稚園実習における総合(一日)実習について

14　映像で学ぶ幼稚園実習とグループディスカッション

15　外部講師による講話(幼稚園実習に向けて)

授業時間外の学修	【事前学修】 (1)全年齢クラスの指導案の下書きをする。(約1時間) (2)オリエンテーションの記録や礼状など、実習に関わる書類を整える。 【事後学修】 (1)授業で学んだ指導案の内容を清書する。 (2)実習で使える年齢に応じた製作物・言語教材・玩具等を準備し、実習の場面を想定した手遊び・身体活動・ピアノ・歌・絵本の読み聞かせ等の練習をする。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み(40%)　提出物 (30%)　指導計画と実習日誌(30%)
アクティブラーニング	ペア・グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、クリエイティブ・セッション、映像活用学習、事例研究(グループ活動等)
フィードバック	授業内での発表やグループ活動の評価や省察を、その都度フィードバックします。
実務経験	
教科書	フォトランゲージで学ぶ (萌文書林) 実習ガイドブック　茨城女子短期大学こども学科
参考書	保育所保育指針解説書 (厚生労働省　フレーベル館)ISBN978-4-577-81448-2 幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説 (内閣府/文部科学省/厚生労働省)ISBN978-4-577-81373-7
備考	･保育実習指導Ⅲの授業と合同になることがある。 ･幼稚園実習の振り返り及び全ての実習のまとめは、保育・教職実践演習で行う。 ･保育実習指導Ⅱの評価は後期となる。

ナンバリング	24322		科目名	保育実習II

担当教員	国府田/助川/佐藤/馬立/加茂川/小口/森井/白土/八木澤

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	◉ 前期 ○ 後期 ○ 通年	単位	○ 1 ◉ 2 ○ 3 ○ 4	授業方法	○ 講義 ○ 演習 ○ 実技 ◉ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☑ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

(1)保育所の役割と機能の具体的展開を学びます。(2)観察に基づき、乳幼児の発達と保育を理解します。(3)指導計画案の作成、実践、記録、評価の一連の作業を通して保育の実際を学びます。(4)保育の要点に気付き、適切に記録するスキルを学びます。(5)保育士の役割を理解します。

到達目標

1.保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深めます。2.子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深めます。3.既習の教科目や保育実習Ｉの経験をふまえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解できるようにします。4.保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深めます。5.保育士の業務内容や職業倫理を、具体的な実践に結び付けて理解します。6.実習における自己の課題を明確にします。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

以下の内容に準じて実施する。

1.保育所の役割や機能の具体的例

(1)養護と教育が一体となって行われる保育

(2)保育所の社会的役割と責任

2.観察に基づく保育の理解

(1)子どもの心身の状態や活動の観察

(2)保育士等の援助や関わり

(3)保育所の生活の流れや展開の把握

3.子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携

(1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育

(2)入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援

(3)関係機関や地域社会との連携・協働

4.指導計画の作成・実践・省察・評価

(1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の理解

(2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価

5.保育士等の業務と職業倫理

(1)多様な保育の展開と保育士の業務

(2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理

6.自己の課題の明確化

授業時間外の学修	【事前学修】 本日の実習を振り返り、翌日の「実習のねらい」を具体的に考え、実習日誌に記載する。(約1時間) 【事後学修】 (1)その日の実習を振り返り考察して、実習日誌の記載をする。 (2)翌日の実習内容の確認や準備をする。(約1時間)
評価方法	外部実習評価(70%)　実習日誌(30%)
アクティブラーニング	保育所および乳幼児、実習担当教員との双方向性の学び
フィードバック	実習日誌と指導案等に関しては、学生からの質問に対して個別のフィードバックを行う。
実務経験	
教科書	実習ガイドブック　茨城女子短期大学こども学科
参考書	保育所保育指針解説書　厚生労働省(フレーベル館)　ISBN978-4-577-81448-2 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　ISBN978-4-577-81373-7 保育実習指導のミニマムスタンダード 全国保育士養成協議会(中央法規)　ISBN978-4-8058-5686-4

備考　・保育実習の評価は後期となる。

ナンバリング	24323		科目名	保育実習指導III

担当教員	安藤 みゆき

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☑ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）	☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解します。施設保育士に求められる資質・能力・技術について省察を深めます。子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わりについて事例をもとに、ロールプレイやディスカッションにより学んでゆきます。事後指導においては、実習の振り返りを行い、実習体験を言語化していく作業を行います。

到達目標

（1）実習の目標を明確にして，実習日誌を書くことができます。（2）保育所・幼稚園実習との違いを明確に自覚し，しっかりとした心構えをもち実習に臨むことができます。（3）既習の教科目や保育実習の経験を通して、施設の機能や役割を理解することができます。（4）保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション、児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能

02　施設実習の目的と意義

03　個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解　ロールプレイとディスカッション

04　実習の事務手続きと実習オリエンテーションの注意事項

05　実習先施設の沿革・方針・特色の理解

06　省察につながる実習日誌の書き方

07　実習日誌のエピソード記録の方法

08　外部講師による講話と質疑応答

09　子どもの権利を踏まえた守秘義務の重要性

10　実習の振り返り(実習日誌)

11　実習の振り返り（子どもとの関り方）ロールプレイとディスカッション

12　実習の振り返り（自己の価値観、家族観の変化について）

13　実習の振り返り（自己成長と自己の課題について）

14　自立支援計画について

15　施設の社会的役割と今後の課題について

授業時間外の学修	【事前学修】 実習先施設の沿革や・方針・特色についてレポートにまとめ、実習日誌にも要点を記入しておいてください。(約1時間) 【事後学修】 参考文献として紹介した本等、施設に関する本を読みレポートにまとめてください。（約1時間）
評価方法	授業への取り組み（20%）レポート等（80%） レポートの評価基準：１．字数や提出期限を守ることができている（10%）２．誤字脱字がなく、表現が適切である（10%）３．内容がテーマに即して適切である（30%）４．論理的にわかりやすく展開されている（20%）５．課題の考察が充分である（30%）
アクティブラーニング	ロールプレイ、グループディスカッション
フィードバック	レポートは、個別のフィードバックを行います。
実務経験	○　児童福祉施設（児童心理治療施設）での勤務経験を活かし、実践的な授業を行います。
教科書	「実習ガイドブック」茨城女子短期大学
参考書	「明日の子どもたち」有川浩　幻冬舎　「夢をかなえる力」読売光と愛の事業団　明石書店
備考	保育実習指導２の授業に参加することがあります。レポートは、個別のフィードバックを行います。

ナンバリング	24323		科目名	保育実習III

担当教員	安藤 みゆき

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	◉ 前期 ○ 後期 ○ 通年	単位	○ 1 ◉ 2 ○ 3 ○ 4	授業方法	○ 講義 ○ 演習 ○ 実技 ◉ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☑ 選択必修（保） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

児童福祉施設等（保育所以外）において実習を行い、保育士として必要な知識・技術を実践を通して学びます。施設における支援の実際の経験を通して、子どもの気持ちに寄り添う態度や個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解について考察します。各施設における他の専門職との連携・協働の在り方や保育士の多様な業務・職業倫理についても学びます。

到達目標

（1）児童養護施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解できます。（2）保育士の多様な業務内容や職業倫理について説明することができます。（3）保育士以外の専門職との連携・協働を具体的に述べることができます。（4）施設で暮らす子ども（利用者）の背景、心の状態やニーズへの配慮を心掛けることができます。（5）保育士としての自己の課題を明確化することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

児童福祉施設等において以下の内容をもとに10日間の実習を行う。

１．児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能

２．施設における支援の実際（1）受容し、共感する態度（2）個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解（3）個別支援計画の作成と実践（4）子ども（利用者）の家族への支援と対応（5）各施設における多様な専門職との連携・協働（6）地域社会との連携・協働

３．保育士の多様な業務と職業倫理

４．保育士としての自己課題の明確化

授業時間外の学修

【事前学修】

実習の目標を具体的に検討したり、必要とあれば余暇活動等の準備をしてください。（約1時間）

【事後学修】

実習内容を省察し、実習日誌に記録してください。（約1時間）

評価方法

外部評価70％　実習日誌30％

アクティブラーニング

10日間の施設実習を行う。

フィード

実習日誌や振り返りシートのフィードバックを個別に行う。

バック

実務経験	◯　児童福祉施設（児童心理治療施設）の職員としての実務経験を活かし、実践的な実習指導を行う。
教科書	適宜資料を配布します.
参考書	フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画　神永直美　萌文書林

備考　実習先の状況に合わせて実習を行います。
実習施設への感謝を忘れずに真摯な態度で実習に臨んでください。

ナンバリング	25231		科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）

担当教員	佐藤/助川/安藤/加茂川/国府田/白土/森井

年度	2024	年次	☐ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☑ 必修（幼） ☐ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）	☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

２年間の学びの総まとめとして、教職課程（幼稚園教諭）および保育士養成課程における学修（授業、教育実習、保育実習等）の振り返りを行い、保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭）として働くために必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認して、自己の課題を明確にします。その上で、保育者としてさらに必要な資質能力や技能を身に付けていくため、グループ討議、ロールプレイ、模擬保育、事例研究、フィールドワーク等を行います。

到達目標

(1)幼稚園教諭・保育士として保育に対する使命感や責任感、情熱等をもち、適切に行動することができます。
(2)内外の他者と関わる組織の一員にふさわしい社会性や対人関係能力を身に付けることができます。
(3)幼児理解やクラス経営、保育内容の指導に関する知識や技能を身につけることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　保育実習Ⅱ（保育所実習）の振り返りと自己課題の再確認[国府田・佐藤]

02　保育実習Ⅰ（施設実習）の振り返りと自己課題の再確認[安藤・白土・佐藤]

03　教育実習（幼稚園実習）の振り返りと自己課題の再確認[加茂川・佐藤]

04　実習報告会の計画[佐藤・助川・安藤・加茂川・国府田・白土・森井]

05　実習報告会に向けて（実習の成果や課題の整理、発表準備）[佐藤・助川・安藤・加茂川・国府田・白土・森井]

06　実習報告会（発表と成果の共有）[佐藤・助川・安藤・加茂川・国府田・白土・森井]

07　実習報告会の振り返り[佐藤・助川・安藤・加茂川・国府田・白土・森井]

08　保育表現技術と製作活動（グループ活動）[加茂川・佐藤]

09　総合表現とプレゼンテーション（グループ活動）[国府田・佐藤]

10　総合表現・こども学科発表会[佐藤・助川・安藤・加茂川・国府田・白土・森井]

11　教職の意義と役割[助川・佐藤]

12　幼児理解やクラス経営[加茂川・助川]

13　コンプライアンスと人権意識[佐藤・加茂川]

14　幼児教育と小学校教育の接続[助川・加茂川]

15　自分の生き方と保育職・教職の意味について[助川・佐藤]

授業時間外の学修	【事前学修】 シラバスで次回の授業内容を確認し、前週に発表される学習内容について調べておくようにしてください。（約２時間） 【事後学修】 授業で学習した内容をできるだけ早めに確認しておいてください。わからないところは参考書で確認したり質問したりするなど積極的に進めてください。（約２時間）
評価方法	(1)授業への取り組み(50%) (2)報告書(30%)(3)発表内容等(20%) 報告書の評価基準 １．誤字脱字がなく、文章表現が適切でわかりやすいか（10%） ２．求められている課題に内容が即しているか（30%） ３．指定されたフォーマットに即して作成されているか（30%） ４．実習内容に関する考察が、グループ内で吟味されているか（30%）
アクティブラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、ライティング・ディスカッション
フィードバック	・授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。
実務経験	○　担当者により幼稚園等での勤務経験を生かし、実習園等に即したアドバイスを行う。
教科書	なし（その都度必要に応じて配布します）
参考書	幼稚園教育要領解説　文部科学省　フレーベル館 保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館 幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説　内閣府　フレーベル館
備考	実習の報告にあたっては、1年生に対しプレゼンテーションをするような場面があります。

ナンバリング	26271		科目名	こども音楽療育実習

担当教員	馬立明美/八木澤香菜

年度	2024	年次	☑ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☒ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☑ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

障害児施設、障害児の特性や発達段階を理解した上で、障害児施設で行っている音楽療育、音楽療法を見学、観察します。また、音楽指導案、プログラム作成、教材選び、楽器準備、環境構成などを整え、付属幼稚園および学内ワークショップで音楽療育の実習を行います。

到達目標

(1)ワークショップを実施するまでの方法を学び、実習に臨むことができます。
(2)アセスメント、プログラム作成、楽器や用具の準備を整え子どもに寄り添った音楽活動での対応ができるようになります。
(3)こども音楽療育実習日誌の書き方を理解し記入できるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　ガイダンス　こども音楽療育実習の意義・目的・内容について
観察実習事前指導（１）実習日誌の書き方・アセスメントについて

02　観察実習事前指導（２）各障害児施設について　役割と機能、支援法

03　こども音楽療育見学・観察実習1-1（児童発達支援センター）

04　こども音楽療育見学・観察実習1-2（児童発達支援センター）

05　こども音楽療育見学・観察実習2-1（重症心身障害児通園施設）

06　こども音楽療育見学・観察実習2-2（重症心身障害児通園施設）

07　こども音楽療育見学・観察実習3-1（ワークショップ観察）

08　こども音楽療育見学・観察実習3-2（ワークショップ観察）

09　こども音楽療育見学・観察実習　フィードバック・発表

10　こども音楽療育見学・観察実習　実習日誌まとめと提出

11　付属幼稚園実習に向けて（１）グループワークによる音楽指導案、プログラム作成

12　付属幼稚園実習に向けて（２）グループワークによる指導案まとめ　使用楽器、教材作成準備

13　付属幼稚園実習に向けて（３）ディスカッションにより担当・進行内容の確認

14　付属幼稚園実習に向けて（４）担当ごとの準備（用具作成・個人練習・MCなど）

15　付属幼稚園実習準備　模擬セッション（１）

授業時間外の学修	【事前学修】 作成した指導案・プログラムを把握し、伴奏の練習、歌唱の歌詞や手遊びをしっかり覚えてください。（約2時間程度） 【事後学修】 実習を振り返り、行ったこと、声かけ、子どもの様子や反応、感じたことを丁寧に実習日誌に記録してまとめてください。（約2時間程度）
評価方法	授業への取り組み30%、プログラム作成と実習日誌30%、附属幼稚園実習およびワークショップへの参加意欲40%
アクティブラーニング	グループディスカッション　クリエイティブセッション　ケースメソッド
フィードバック	提出プリント、ノートには、評価と教員のコメントを記入して返却します。
実務経験	○　児童心理治療施設、児童発達支援センター、重症心身障害児・者施設で音楽療法士としての実務経験を活かしこども音楽療育実習について実践的な授業を行います。
教科書	必要に応じて適宜配布
参考書	島田徳英(2013)「簡易伴奏による実用版こどものポップス大集合」デプロMP 下川英子（2011）『音楽療法・音あそび　統合保育・教育現場に応用する』音楽之友社
備考	授業内および実習内で、その都度フィードバックを行います。 ＊施設での観察実習（一人3回）付属幼稚園実習（一人1回） 学内ワークショップ（一人1回）